



ミラツクミヨルニルミヨニテモ  
メクリアヒケルアニウカシナ

△漢漂 十一 哥ラ名トス 原七七歳時京<sup>十月ヨリ</sup>聖<sup>神</sup>存<sup>命</sup>廿八十月三有

ば<sup>何</sup>やう<sup>に</sup>し<sup>て</sup>の<sup>後</sup>院<sup>れ</sup>み<sup>つ</sup>ど<sup>れ</sup>に<sup>い</sup>  
 と<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>け<sup>し</sup>た<sup>て</sup>い<sup>ご</sup>う<sup>れ</sup>ま<sup>る</sup>こ  
 ぬ<sup>ん</sup>つ<sup>こ</sup>せ<sup>ら</sup>ひ<sup>な</sup>ま<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>ん<sup>と</sup>き  
 あ<sup>げ</sup>い<sup>う</sup>ろ<sup>う</sup>と<sup>く</sup>く<sup>う</sup>ぬ<sup>て</sup>い<sup>れ</sup>れ<sup>い</sup>に<sup>い</sup>  
 び<sup>い</sup>し<sup>ね</sup>津<sup>空</sup>月<sup>よ</sup>い<sup>れ</sup>八<sup>海</sup>一<sup>ぬ</sup>世<sup>れ</sup>人<sup>か</sup>  
 び<sup>い</sup>し<sup>ね</sup>ま<sup>つ</sup>つ<sup>と</sup>と<sup>い</sup>じ<sup>ー</sup>の<sup>や</sup>あり<sup>大</sup>  
 平<sup>治</sup>年<sup>に</sup>記<sup>す</sup>れ<sup>ば</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>に</sup>か<sup>う</sup>し<sup>ま</sup>あ<sup>せ</sup>内<sup>中</sup>  
 よ<sup>し</sup>つ<sup>の</sup>あ<sup>よ</sup>ひ<sup>人</sup>と<sup>え</sup>け<sup>し</sup>ぞ<sup>あ</sup>り<sup>わ</sup>ら<sup>と</sup>受<sup>け</sup>  
 一<sup>つ</sup>れ<sup>ど</sup>中<sup>心</sup>院<sup>の</sup>い<sup>き</sup>さ<sup>が</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>お</sup>し<sup>ぬ</sup>  
 ぬ<sup>の</sup>い<sup>ら</sup>ひ<sup>の</sup>ぬ<sup>べ</sup>く<sup>き</sup>う<sup>ろ</sup>と<sup>あ</sup>し<sup>り</sup>  
 原<sup>ノ</sup>ス<sup>ニ</sup>コ<sup>リ</sup>

五曜文庫

南田氏 藏書

いそいで心からさびしくかんきりくわ  
 うりあやませぬしあしきしやがぬれ  
 ど大いよえなぐりつまで心づか  
 とこれいしうぬとそりつは  
 ありて流成れきり流せ中の  
 となよし勢ぞなりくの流せなご  
 ついほいのみやあれど大るれよの人し何  
 あくられいことよありいびあしるあ  
 かなんめい心れいひらくなるあうよしあ  
 のこれいげよせと心なげう流す  
 へと長よあひさしうあともいせ流す  
アキナキナ  
アキナキナ  
アキナキナ  
アキナキナ  
アキナキナ  
アキナキナ

しのりげなくけあり流すよ成せの  
 流りきく心づららるよなんし  
 うらなかりんご  
今主ニト又内侍終つしハ林中ニト四元ニサトモ林中ニト見ラフ  
 いすいありん  
 げいめいぎれま  
原ヨリモ  
朱イ  
ヨキ  
 とれいん長よそ  
 かにありてみ  
北  
志  
三  
ハ  
及  
二  
ニ  
キ  
ト  
 ーしちぞうい  
朱  
 ねそららら  
 く白ひてこ  
朱  
故  
ト  
 ともあわれ  
ツ  
ミ  
ト  
ハ  
原  
ニ  
逢  
五  
フ  
ー

よらう後しとれ流朱ぞくふ朱な朱ど朱み朱こと朱ぶ朱

よめい朱く朱ま朱い朱くら朱あ朱う朱し朱あ朱ら朱か朱

ら朱ぎ朱あ朱ら朱い朱く朱の朱あ朱い朱ま朱み朱いで朱流朱え朱

と朱ら朱し朱口朱あ朱や朱く朱あ朱ら朱い朱い朱い朱い朱と朱え朱

ぞ朱み朱流朱し朱ん朱う朱か朱ど朱ゆ朱く朱そ朱あ朱れ朱と朱と朱く朱の朱流朱

え朱ら朱し朱よ朱い朱と朱ら朱な朱ど朱あ朱あ朱ら朱う朱う朱さ朱あ朱ら朱と朱

く朱あ朱ら朱な朱ら朱れ朱い朱づ朱い朱れ朱う朱一朱月朱よ朱そ朱あ朱ら朱

よ朱め朱い朱な朱の朱せ朱流朱よ朱め朱で朱う朱さ朱く朱あ朱い朱ど朱流朱

も朱ら朱い朱づ朱わ朱う朱う朱う朱い朱づ朱く朱あ朱ど朱ゆ朱え朱え朱れ朱

流朱ま朱い朱よ朱あ朱ど朱そ朱れ朱心朱の朱わ朱く朱い朱づ朱け朱あ朱ら朱い朱よ朱

あ朱ら朱て朱き朱ら朱あ朱を朱さ朱い朱と朱う朱い朱い朱い朱出朱て朱秋朱も朱

と朱ら朱い朱よ朱し朱い朱ん朱ぞ朱く朱の朱れ朱い朱あ朱ら朱い朱あ朱ど朱流朱

あ朱ら朱い朱よ朱い朱ら朱い朱い朱ら朱い朱あ朱ら朱う朱う朱れ朱い朱い朱

ら朱い朱よ朱い朱ま朱の朱れ朱ん朱ぞ朱く朱の朱と朱ら朱り朱十朱一朱よ朱成朱

流朱ぞ朱あ朱ど朱ら朱い朱あ朱は朱い朱よ朱あ朱ど朱い朱い朱い朱よ朱

ら朱い朱よ朱い朱ぞ朱流朱れ朱大朱細朱ら朱れ朱い朱か朱と朱あ朱

け朱い朱よ朱う朱ら朱う朱う朱い朱ん朱や朱う朱よ朱み朱え朱流朱い朱と朱ま朱ま朱ど朱

ゆ朱い朱い朱ま朱ど朱ひ朱ら朱あ朱ひ朱流朱く朱と朱せ朱く朱あ朱だ朱い朱い朱ゆ朱

よ朱あ朱ゆ朱れ朱ど朱い朱ま朱く朱い朱ら朱い朱い朱ら朱い朱い朱ら朱い朱ら朱い朱

い朱い朱よ朱あ朱ひ朱な朱く朱れ朱心朱よ朱つ朱う朱う朱流朱ら朱い朱よ朱

も朱あ朱い朱い朱い朱と朱あ朱ら朱い朱ら朱い朱て朱せ朱申朱ゆ朱づ朱ら朱い朱

朱  
王  
丸  
三





くならりぬべし二条院よもおあぶとまら  
劣しりり人よ哀つら物よ愛して命はめじ  
祿あくとむわとむげせど中お中勢やうの  
人よは福くよつげつならけとみ之流よ  
れやとぬあくておわりもこも流もぞ二条  
院のいんごう文院のいんごうやんまり  
とにるくわとあはれくせ流さるる書など  
やこれいんごういんごうはぬさんおど愛して  
てはららるる流もいんごうやこれいんごうは  
ーげなわーいんごうと愛してわさる時か  
られどあはやけわいんごういんごうはぬれ

よえおぼせもつあもいぬいぬいぬわら  
去年六月ヨリ十月  
三月にいんごうは流いぬやと愛して  
ふよんあはれぬ哀もそいつりひわいんごう  
ふりあうて十六日よるん女よそいんごう  
よおー流いぬげまのめぐーいんごうは  
よそいんごうあうと愛せよとらあらぬ  
あどそ系よいんごうととせよとせよとせ  
いんごうとららぬいんごう愛する宿願よみこ  
三人いんごうとららぬあはれぬあらびて生  
せぬー中のとららぬ太政大臣とららぬ  
あといんごうとららぬ中

原在盛はら  
宿願通  
如此相ス  
ト

不見死モ不見後ナリ玉フ  
たに

カワカトヨムニ

明石六三  
とてわづらひよ女明石中三にてふれつとてわづら

しとてうしてうなるあかり大原さかどか

こころわよめわか太上天皇その号ヲ御詔ハ上キ位ト云ヘせつらつら流流死

とささづらうしこりしあまのれれ念

もれあしあつらうらうにせれまづこと

しこよ活九辻ト云ニテ活ウツトホスニあつらふと若たさくはれく

位よふひねわつととあひねれとらうま

しと受て見づしこもてくつれ流くは

ら天位ニツキ玉ニハ深クホサヌトシいさうよみまのしこく受て故院ノのたまは

みこころれかよせられてらうらうさ物よ受若院

しこわしうとさく人よ受と控せづらわ

相違ナリ心よあふよほつせとくわらわ有果うらわらわ

あし中子ト云スまをせとあらしよんれ中子トとあひ

とさく人れとじかしとせとれ心れう

りよ受しうらひまはり束のつらましとと

受てよ有果何れれ淋のきまよとよられん

よになべてあしぬきくせよとひぐし

あし有果とびあし心とれよやあひん

さう右ナドニ云そいし右ナドニ云せらよもあづき人明石中三

北のやきいせひよ明石中三んかんと

うとだけあくもさく経ノ日教シ行明石中三ひ

てじみとんとあつと右ナドニ云いれ明石中三院明石中三

右ナドニ云院明石中三



びんをくくるといふにやまよひにあはせぬべし  
乳母 乳母もえくらぐらうしく人もあはせぬべし  
母 直旨 藩トミテ故院ニありし人 父して古院よきやひーんとれしはあ  
父 家内は宰相とあはせぬべし  
直旨 ありしとくもむしとせていせうなる  
全責 龍たテテ せよ逃けらぐらうなる後こそよりこい  
 こととまーやいつげらうとちうたあらわて  
ラナクニトナント とれれぞよまひひあしけり人あして  
直旨 心 かりけいふぬよのぬらぎらまふわけてか  
 よしながういんをけられぬぬぬぬ  
 やよなぶひうがえさかれぬぬぬぬぬぬぬ

だじいぜびあつわれとぬいんよあぐた  
ゆえれおの乳母ナリ うらひあしてまのけいーPせあひ  
原 と表よけいあしてぶーそぬぬぬぬぬぬ  
 ぼよいけうあむびまうたれておの  
ラナクニト かわさあしかうふよせまーとぬぬぬぬ  
原 ぶいしとけあはぬよよろげらうぬぬぬ  
 てこのぬえせんまよしとまゆらぬぬぬぬ  
刊 乳母トミテ ありぬれぬとてぬてあやふらぬぬぬぬ  
原 ありぬらぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
原 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
乳母 直旨トミテ明名浦 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ



いぬい...  
道...  
く...  
よ...  
ま...  
へ...  
み...  
つ...  
ゆ...

のぞ

原

原

半

原

原

原

原

袖下ニハグミント

天津し女子が羽衣ニシタル儀ノ如ク長久トシ

兵庫ヨリアカリテ

京

ぐ...  
よ...  
ら...  
そ...  
し...  
と...  
あ...  
つ...  
こ...  
と...  
ご...

姫

京

原

原

原

原

原





同よりいさむらじあぞ（原）ぞやいなそ（葉）ふ  
 せんいのあ（年ハシレヌモラシドモ）をうがひづいぬおあれ  
 くるあこととる人（世上ノ人人ハ）はふくはしとく（諸君ハ）  
（葉）ヒトリユくはぬぞやとてかうれいにし  
 せてこそあをせそひぬてそめ  
 しあし泣く（葉ハ）これぞおのろくも極  
 こゝろや（葉）おれぬとてあはれ  
 うろくくたよむぬくめいよまがに  
 エうゆくと前（心）つきてぬかんとしぬか  
 中しあがむつこてとてとてらなるぬ  
 ところよりみあつと（原）おはせぬ月あよ

二十日祝也三月十六日ヨリ  
 らいよあをんととんれぞうぬぬて  
 ゆいよ衣よおや（京）おのとしはらよ  
 ひあつぬよめあ  
 口あれわざ（明名浦）やあ  
 こゝろぬて（生）てとてとてあはせ  
 君あつとくくくくくくくくくくく  
（後）なモトニアーニ  
 こころけあを  
（葉）た近モ  
（葉）た近モ  
（葉）た近モ  
（葉）た近モ  
 とこれ日たぐぞまうつてそのいさむらじあぞ  
 よういづいぬおはれとてあはれ

ウノ松とミモアキラス  
カニサアトハニラアキラス  
ミシハアキラストリノ松  
トモス(一) 松ノ守ミ  
ミモアケフノ子日ミアキラス  
ウノ松ラコノク(一)アリ  
トアリ

うきでしきいふ故として ミモアノウツリ物に  
らひもあり タカラ

らむ松や時ぞ 不変イ一祝メ云 かげよあて何 子メモロク

れあやめいよ 明存松ノホリニイテハ骨格セシラント ん心のあくがら 文刊

まごあん様としていえ 京ノボリモシニ ぐすまご カニハナキヤホ

いから流ね 京ノボリモシニ わり カニハナキヤホ こ カニハナキヤホ

ももと カニハナキヤホ 流ア カニハナキヤホ 入 カニハナキヤホ 例のあり カニハナキヤホ び カニハナキヤホ び カニハナキヤホ

しそわ カニハナキヤホ ね カニハナキヤホ ら カニハナキヤホ ら カニハナキヤホ ら カニハナキヤホ ら カニハナキヤホ

い カニハナキヤホ ぞ カニハナキヤホ こと カニハナキヤホ たり カニハナキヤホ とも カニハナキヤホ

な カニハナキヤホ せ カニハナキヤホ ん カニハナキヤホ ぞ カニハナキヤホ 心 カニハナキヤホ ま カニハナキヤホ げ カニハナキヤホ

あ カニハナキヤホ く カニハナキヤホ い カニハナキヤホ づ カニハナキヤホ づ カニハナキヤホ づ カニハナキヤホ づ カニハナキヤホ

く カニハナキヤホ づ カニハナキヤホ づ カニハナキヤホ づ カニハナキヤホ づ カニハナキヤホ づ カニハナキヤホ

あ カニハナキヤホ ぐ カニハナキヤホ ぐ カニハナキヤホ ぐ カニハナキヤホ ぐ カニハナキヤホ

あ カニハナキヤホ ぐ カニハナキヤホ ぐ カニハナキヤホ ぐ カニハナキヤホ ぐ カニハナキヤホ

ヨシノ人シラス  
イカナシ葉ノ中ニ行カハ  
せウキコトノ劇(コウラン)

子メモロク  
祝言  
文刊  
カニハナキヤホ

カニハナキヤホ

カニハナキヤホ

カニハナキヤホ







行多りツ井三徑三月歌  
ニハシクセラニソラナナナ  
加

あつらへ申こめもつらうへれれと見え  
原とくまててこく氷難よおどろくうらう

しのえつらつこもれれれ原あつらへれと  
れとよましのえどあど原いふとせらなと

うごきしこころいふいふとせれれれれ  
原とくまててこく氷難よおどろくうらう

さねざりりりりりりりりりりりりりりり  
原とくまてててててててててててててて

しめりれもとのえりてあどそたけり  
原とくまててててててててててててて

あどとといへう物とふるもろんうここ  
原とくまててててててててててててて

しめりれもとのえりてあどそたけり  
原とくまててててててててててててて

あどとといへう物とふるもろんうここ  
原とくまててててててててててててて

あどとといへう物とふるもろんうここ  
原とくまててててててててててててて

あどとといへう物とふるもろんうここ  
原とくまててててててててててててて

あどとといへう物とふるもろんうここ  
原とくまててててててててててててて

あどとといへう物とふるもろんうここ  
原とくまててててててててててててて

あどとといへう物とふるもろんうここ  
原とくまててててててててててててて

例ぬいづこれ  
ツナミヨバニ花ラサカス人

ヨシ人ニラス  
クリスニヌモオキ卷六  
エヌヘシ人ニクカラス  
世ニ任ハ

アテツラフルトの内裏ノカキサハラノ  
アヤクハヨリシツルガハシレノ  
とれえひいもあらカハ流もどこうわど後  
よいうりふり心づ人もあれど母くういよこ  
も流てじしれやうもわひうくあし流  
えど中ノ前せういさきくこせ中あは  
丸<sup>兼兼心</sup>流しめどやよきうなわて時ぐよつ  
けてあういこれあさひもどこのあうけよ  
てあういぬせぬ更夜路例のどとさや  
ひ流んどままのいも<sup>兼兼心</sup>女流のこぞうわい  
て時あういぬともがく人の流れぬおが  
よとけられぬアハと<sup>兼兼心</sup>ひうたぐぬ

春宮シニウケ至ニ

でういこれいといそくえあれ出で文よそ  
ひやう流つる<sup>兼兼心</sup>おどおのいぬのあ前いししれ  
あけいさうり<sup>兼兼心</sup>か<sup>兼兼心</sup>つがよまま<sup>兼兼心</sup>くおら<sup>兼兼心</sup>後  
せむらうご<sup>兼兼心</sup>らわのれ<sup>兼兼心</sup>心<sup>兼兼心</sup>せよ<sup>兼兼心</sup>何<sup>兼兼心</sup>と<sup>兼兼心</sup>とし<sup>兼兼心</sup>あ  
り<sup>兼兼心</sup>ひて<sup>兼兼心</sup>文<sup>兼兼心</sup>とし<sup>兼兼心</sup>う<sup>兼兼心</sup>ろ<sup>兼兼心</sup>も<sup>兼兼心</sup>り<sup>兼兼心</sup>流<sup>兼兼心</sup>入<sup>兼兼心</sup>る<sup>兼兼心</sup>さ<sup>兼兼心</sup>さ<sup>兼兼心</sup>  
の文<sup>兼兼心</sup>れ<sup>兼兼心</sup>く<sup>兼兼心</sup>わ<sup>兼兼心</sup>と<sup>兼兼心</sup>あ<sup>兼兼心</sup>ら<sup>兼兼心</sup>あ<sup>兼兼心</sup>れ<sup>兼兼心</sup>べ<sup>兼兼心</sup>う<sup>兼兼心</sup>か<sup>兼兼心</sup>ら<sup>兼兼心</sup>ひ<sup>兼兼心</sup>を<sup>兼兼心</sup>よ  
夫<sup>兼兼心</sup>ゆ<sup>兼兼心</sup>ま<sup>兼兼心</sup>あ<sup>兼兼心</sup>ら<sup>兼兼心</sup>て<sup>兼兼心</sup>ま<sup>兼兼心</sup>流<sup>兼兼心</sup>も<sup>兼兼心</sup>せ<sup>兼兼心</sup>流<sup>兼兼心</sup>院<sup>兼兼心</sup>司<sup>兼兼心</sup>  
ごも<sup>兼兼心</sup>な<sup>兼兼心</sup>わ<sup>兼兼心</sup>て<sup>兼兼心</sup>さ<sup>兼兼心</sup>後<sup>兼兼心</sup>と<sup>兼兼心</sup>よ<sup>兼兼心</sup>い<sup>兼兼心</sup>れ<sup>兼兼心</sup>う<sup>兼兼心</sup>か<sup>兼兼心</sup>と<sup>兼兼心</sup>こ<sup>兼兼心</sup>あ<sup>兼兼心</sup>ひ  
く<sup>兼兼心</sup>ど<sup>兼兼心</sup>れ<sup>兼兼心</sup>し<sup>兼兼心</sup>と<sup>兼兼心</sup>れ<sup>兼兼心</sup>ほ<sup>兼兼心</sup>の<sup>兼兼心</sup>い<sup>兼兼心</sup>ゆ<sup>兼兼心</sup>と<sup>兼兼心</sup>あ<sup>兼兼心</sup>ら<sup>兼兼心</sup>し<sup>兼兼心</sup>て<sup>兼兼心</sup>あ<sup>兼兼心</sup>く  
し<sup>兼兼心</sup>ま<sup>兼兼心</sup>せ<sup>兼兼心</sup>う<sup>兼兼心</sup>せ<sup>兼兼心</sup>よ<sup>兼兼心</sup>ら<sup>兼兼心</sup>ら<sup>兼兼心</sup>て<sup>兼兼心</sup>ぞ<sup>兼兼心</sup>う<sup>兼兼心</sup>も  
く<sup>兼兼心</sup>く<sup>兼兼心</sup>み<sup>兼兼心</sup>や<sup>兼兼心</sup>り<sup>兼兼心</sup>流<sup>兼兼心</sup>く<sup>兼兼心</sup>ぬ<sup>兼兼心</sup>と<sup>兼兼心</sup>よ<sup>兼兼心</sup>や<sup>兼兼心</sup>く<sup>兼兼心</sup>う<sup>兼兼心</sup>ら<sup>兼兼心</sup>

白王台宮の台布名也  
白王台宮ハ神子持ニラス  
大皇太子宮ハ神孫神子ニラス

判官代  
女院方  
上ノ人ニ神封  
ノウノ御出  
セ

一説者ヲ



東遊ノ舞人十人馬系  
 テ青スリトモモノヲキテ  
 神社ノ行幸 園白 噴茂  
 春日詣ナド、グス社廻  
 ニテ木子ナト舞テ共  
 後馬場ニテ馬ヲ馳ス  
 亦ノ住吉詣ニモ舞人  
 十人ヲ具シテマヤ

神もくといはるる法つらねありしはれ  
 の舞はくうともの例れとてはサウ後  
 つらと儀とてい儀らるとありてとこら  
 くら礼こころありてみてあひらりり  
 母もてまごぞいりていりていりて  
 られどつてまごでね人のけしひが  
 さよらりて、つら神んだとてはれ  
 づけいり舞く十つら烈なとさ烈ぞくと  
 うのく烈らとえひりていりて  
 つらとていりていりていりて  
 まごでねとていりていりていりて

馬十烈トモ  
 アリ

いし程のげせらるるつららわふ  
 げ舞いりていりていりていりて  
 ありていりていりていりていりて  
 のいりていりていりていりていりて  
 くせが舞いりていりていりていりて  
 らいりていりていりていりていりて  
 うら舞いりていりていりていりて  
 めはつ舞いりていりていりていりて  
 びいりていりていりていりていりて  
 くら舞いりていりていりていりて  
 ねいりていりていりていりていりて

こころは... 位ヨリ淺深アリ

うとさうぞきりせ六位の中うと鹿人

あそりろきりせ... 位ヨリ淺深アリ

うとさうぞきりせ... 位ヨリ淺深アリ

くさげから... 位ヨリ淺深アリ

ゆさひな... 位ヨリ淺深アリ

ありさぬ... 位ヨリ淺深アリ

人こひ... 位ヨリ淺深アリ

うらぬ... 位ヨリ淺深アリ

の神も... 位ヨリ淺深アリ

忠仁公ハアリ...

アとさうの人みどり...

の中人... 位ヨリ淺深アリ

心やま... 位ヨリ淺深アリ

ぞく... 位ヨリ淺深アリ

ゆさひ... 位ヨリ淺深アリ

くさげ... 位ヨリ淺深アリ

あそり... 位ヨリ淺深アリ

うとさ... 位ヨリ淺深アリ

やうて... 位ヨリ淺深アリ

あそり... 位ヨリ淺深アリ

イサノキタリト...

よめぞうくこむりよつひてしるる君れぞ  
かぬ後そゆ一旅とらうどとるまじや  
られしよあづまゆ也、津国守護のうしあうてれまのうば  
例の大臣などのあう旅うわいしよせよ  
あくれうまうつれうんしよしよか  
くれぐらまうどさうぞあぬまれのう  
のしよせんよ津もこつれぞまう旅べさおし  
あうぞえんよしかうぞうらわらふかにかに難波、信吉、向尾崎、近所  
こにみさうとあそもしよとぞよせんそ  
こぞわらわぬ君もあもし東ノ系記しよれまぜよ長一木  
こよらうくれしよとせせれましよ津のよ神樂座馬鹿サマシ

ろこび旅べしよとあつらうしよしよこれ  
れよしうらそくらわらうしよまうぞあそびの  
れしうあしよ津惟光やうめくらのしよ  
津めれうくと長よめぞうとあそわらうしよ  
ゆよましよ津つらうしよあひてあしよら  
ととほそあそびげよしよとらうて  
あうわらうしよまうひよ信長の津とぞ  
ふけてあやうらうあうらうあうらうのれし  
とぞぞうしよれあうのまじひごしよ  
えれてる難波あうしよとあゆれを原とらうらう

惟光 松ヨメナリ ラモト出ストシ 昔ト云ニ用ノ明石近ノ  
津代ヲ思出シ先物也信長ヲトク 時ヲ云

古今元良親王  
徳元今夕同難世に  
身ヲクシテ道ニトラス

瀧澤 難波、立初ト云リ  
其所ヲ水守御石ト云トハ  
依日記アリ、江海深キ  
所ニ本ヲ立ニ人ヲシテシラ  
又ニ舟ノミナトスト

ヨシノシラス  
難波には  
タミナニタツトタル

しと哀し。爰そ、祚め、れ、つ、ら、ん、と、ぞ、し、出、り、し、と、ら

ら、あ、い、ひ、い、さ、く、ら、ら、れ、せ、し、り、こ、と、ど、う、よ、き、て

心、か、ぎ、さ、あ、む、や、中、に、い、ま、も、ん、と、お、ぼ、せ

みやう、ら、ら、流、て、あ、こ、よ、せ、し、え、し、と、つ、け

流、が、よ、あ、の、れ、さ、く、あ、ど、こ、と、よ、た、り、れ、よ、し、を

と、し、い、れ、い、ま、つ、り、なり、え、め、わ、ら、り、と、れ

流、ど、て、い、ま、も、さ、か、あ、ど、難、波、が、ら、と、流、心、よ、う、ら、く、と、し、テ

し、あ、で、ら、ら、ど、ど、流、ら、と、れ、車、れ、む、と、ら

と、い、世、を、う、け、流、り、や、え、ら、ら、ん、さ、ら、り、や、し、

や、と、例、よ、あ、ひ、ひ、て、や、と、ら、あ、よ、ま、う、け、い、ら

流、ら、み、ど、り、い、さ、で、あ、ど、れ、車、さ、び、じ、う、あ、し、

を、ら、り、い、い、と、き、て、た、ら、う、ご、し、よ

み、と、つ、り、い、い、と、き、て、た、ら、う、ご、し、よ

い、あ、ひ、ら、ら、え、よ、い、や、い、か、さ、そ、流、れ、ら、い

この心もわらうともくをりてやりらり、この後あべ

て、う、ら、ら、色、流、り、も、心、め、こ、う、ご、く、よ、あ、ら、む、ら、り

あ、れ、ど、い、と、哀、よ、う、け、あ、く、あ、が、し、て、う、ら

あ、ら、い、ぬ

う、ぞ、な、ら、で、か、よ、も、め、と、し、も、ひ、あ、え、い、よ

か、ど、り、と、つ、り、ら、ひ、の、あ、ら、ん、だ、こ、の、て、は、は、よ

こ、れ、ど、い、い、い、つ、ら、れ、い、い、の、り、の、あ、よ、つ、け、て

あ、ら、り、日、ら、れ、い、よ、な、り、ゆ、く、夕、境、う、ら、ら、え、

肉ニヨリぬ石、ハツアリテノ意又今マハ、(来ル聖リノ意)

今モ七瀬ノ神、夜毎月見リ、ハカニアリ

ハカニアリ、時ノ道、遙神ヲ崇メ、フナミ(ナリ)

後、テ、ア、ノ、シ、ト、シ、ク、

シ、ヨ、ノ、シ、ト、シ、ク、

ト、ハ、ミ、シ、

任徳天皇ノ神、時、始、テ、ナ、リ、シ、河、也、

モ、シ、神、用、モ、ヤ

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、

ヤ、ケ、テ、モ、シ、



貫之  
雨ヨリ田表嶋ヲシテハ  
名ニハカクシヌモノト有テ

りえのぶられ志ありまね程の義ぐる  
りしつれれどもやんかしほまどあひみ  
まりくくくく

おぼけこのじりよいら縁衣つこの

われかよえくられせられまよひあう

せえしつそびのこり旅どれ心よあそ

りてあやあそびごものれはひ系

けりし上達アとやゆれどわやよと

このまのげらういほめさめあぶるり

れどいぞやあしこももの義もく

そわづれかめあうりことばごよせう

上達アタ  
十三目トム  
ルニホム  
ガフニヨルト  
テスレク  
シキハヤ  
ト

あしこいしよらわぬら心もじうたうり

しなういせよおぼせよあが心とかりて

りしつれいあかしうとましあはら

これんせがうあしてまこれ日ぞようり

らりれをみてぐらをり程よつけん執ご

しなごろくもくしうり又申こゆらぞ

らわてわはられ口あしこあとなげく

まや京よあししけくんとらよ目ぞせし

しぞれつひありけごらの程よじうんこと

その旅くいせりあしげようぞまへの旅

あれどいづやまうりあしあしつれ申ぞ

今ハト嶋ヲシテ行舟  
ニシテ袖ニミルゾ悲シキ

あしあしあしあし  
あしあしあしあし  
あしあしあしあし

よわがそふことやあんとふらぐも  
そいづしあふんふとうらめし  
カウアリトテ  
申こころこれ弁はわも心成り  
よろげよほいまうとらりてこと  
かこもまこしやれそまもろくわ  
くバ文も本のがり流てのらりぬ  
どもこやひまし流といわわ  
かさけとれりしぬとじし  
ありし心どくの中あふん名流  
とらひも向り流れどわらわ流など

天子ノ代替ハ  
伊勢ノ宮  
サトノカ  
ヨリツレナリ  
シナリ

は西説ナリ  
サトノカ  
ヨリツレナリ  
シナリ

とあふとあわかぐりよ  
流ても新心あぐり  
らんはありし  
にづれを  
ぞうよ  
まし流れ  
しけり  
流り  
いそ  
よそ  
よそ

凡見所ハ  
凡流ヲ好  
玉ノ人ナリ

取内本臣ナレハヤリシモノアリキハナラス

凡流ナレテハ

ロカキ殿上

カキテ

めめいしやがそくあはれなれにゆくも亦新 佛道ライム新

ようべつつとらうあはれそめまにぬ

ぬぬおまきぬてあしやうにら けくしにらふあまのつら

けくしにらふあまのつら ぬぬとしやあはれん

よふあしつとくあはれなりあはるるがく

らけくしにらふぬぬあはれなりあはるるがく

ぬぬあはれぬぬあはれなりあはるるがく

らけくしにらふぬぬあはれなりあはるるがく

ぬぬあはれぬぬあはれなりあはるるがく

ぬぬあはれぬぬあはれなりあはるるがく

ぬぬあはれぬぬあはれなりあはるるがく

ぬぬあはれぬぬあはれなりあはるるがく

あまのつら

あまのつら

うなひぬくすまぐてもきりともあけりけり  
とせしうらぐは長ききりてあまのぬぬあまのつら  
とぞあしぬぬがそくそくともあはれんを必  
しよあれてるすまぐてもあしぬぬをこあづ  
あ人もあはれぬぬあはれぬぬあはれぬぬ  
ひあひぬぬあはれぬぬあはれぬぬあはれぬぬ  
ぬぬあはれぬぬあはれぬぬあはれぬぬあはれぬぬ  
うらまをみまんとそくそくあはれぬぬあはれぬぬ  
きりけくしにらふぬぬあはれぬぬあはれぬぬ  
らひしあはれぬぬあはれぬぬあはれぬぬあはれぬぬ  
しそくそくあはれぬぬあはれぬぬあはれぬぬあはれぬぬ

非別哥  
身ヲムスハモラシニ秋月  
山ノアタタノ人モニツラン

うしろを突しんとあんなに泣きつゝようしり  
めつこかぶあし泣きそむどあし泣く心  
あつこいとぬとようちくめじどいあやなむど  
あつこ

うそこゆづる念ごよあやよこあれぬかハ

と後なりことよとせぬめれまうてあまが

しめあまむいよつひてしららういあまか

とやうらまのど人よはしとれ泣らん

うそあつこひやりとあれどしげてや

うのよびいりせらよあがりうらむうれ

かよつこゆらよもせもひのみかえりあ

うとらあつぬよあんゆれれどいぞとふんこ

世中候ハナ  
モナキコト  
原ヲ疑テ

とりそとわれてみまんとと泣きつゝなむど  
あしめくをいあひあくみの泣れとあげせど  
年ららよろげと泣くちりじらりのと昔の  
そこ心めかづりけりぐかよの泣あせもほ  
いあくあんぞよあつこつとせとくらう  
あつらうらうあははかづかかのよ物あり  
こかりてこわりとりあまもあがしてやと  
られん帳めかころびもりみのくを心むとか  
こころめかづりよれぐいとあしげよふや  
よれぞをよりあぬ泣く心よとつとつんきぬ  
してうらう哀あり帳のひへうあせよ

ヒナクサ  
シメツク

そひやう一遊分ぞまかへんし秘た九懐め一  
 とけあくひさいやれらうらわはめとどめて  
 みかへ一遊つれとほくづえつうてよとゆが  
 一とあばいふらさぬがわらわらうなれどいと  
 うけう一げあんととむねぐ一のうりた  
 ぶか福一しらつさいけしひあてけいこゆらひ  
 ちやはよあいぢもつうさい遊つかけしひとるく  
 みし遊へむ心もとなりくゆ一しさいあしたいばらトまて  
 さいの遊物しとさう一んせたとたくしま  
 うわゆるしけかさいととわたわたせ遊ひ  
 とそくよつうさいせしれ遊しらしくまりしる志

ヒギ近八  
チキトヨリ  
ゲスチヤキ  
六令七母をノカクハセヨ  
ト至マ  
ヲト

遊し一しましらしうしあしばしれしむしらし一しるしんし  
 と心しらし一しうしわしがしいしらしいしよしあしばしせしらしとしそ  
 のぞしいし遊し気しなしれしくしあしそしらしげしよしゆ  
 やしづしちしぢしらしのしどしくしづしちしあしらしありしも  
 わしせし遊しつしらしはしとしよしらしいしししぞしあしんしんし  
 ゆしとしそしうしししあしししせしつしれしむしさしわしとし  
 としこしのしりしくしなしんしあしどしあしししせし遊しらしらし  
 せいしいしんしのしつしらしはしとしあしらしらしもしいしとし後しよしあしんし  
 故し院しめしみしこしらしあしましさしゆし一し遊しどしとしとしくし  
 じしつしびしあしばしせしししあしこしくしあしこしとしうしんしれしか  
 あしらしみしこしうしらしれしうしらしよしうしすしましくしあしししれし一

ツラハ教ト又ソクニトモ  
師兄サシ  
浄養長子ニモト

うぶさこせいのめしずしゆめせうしゆしが

浄子ノナキラズ

うし程よありぬりよしひかきりつるし

源三子ノナキ

あけしむさうぐきうとあどあして之り

流ぬいしあひいしよこしうらまうりて志

むくあし流せ八日りわてうせ流より

阿久がうり受るくよよしとえうあてぬ

心がそり受うれて内しあり流せごこ

れんしあどとせを流又のりいん

しことよあをせうりあささい交れあ

だういあどれいりまつりなれらぞあま

しとごもごめうらつししわたり流

アうまよれせうそにあし流るよしとせ

ゆりぞあどあ別あしてあし流アうあさ

せの流とごしとせしゆとまはあぞそ

かふしあぬし受うれむらりくあんとさ

うし流て人ごあいでうあういしとせ

あゆせ流しとれりげようし流のれいぞ

へうりく一つべうあといあさうごのく

うせしなうりしうまうせ流アうあま

りあがわつれはうりそみせあうしこあ

てとこかたせ流みやまははのうりあ

うし流やうし心あうりあていあづ

度ハハタメ  
ナキナキ  
セリ  
ナキ

度ハハタメ  
ナキナキ  
セリ  
ナキ

ししからりめどましぬくましうお  
かこしとあめとめどしこけなう  
とそしあゆつなうわりり音みだれう  
こしづれあや一日よあめのかわりは後  
うすよかぢぬんとさやりあをぬて  
れつひもれぬくすいもれそしとよ  
れらんぞん

ありとづれいよあういれよあうい人  
のあまゆきんやどぞうあういぞうい花田ニヒカ  
ろめこれくもさういよいぬアわ  
う人のれあよとぞまらむとあてししては

くろひぬつういとしあやなわ交ういと  
あしにくえぬとこれれくづてよそび  
じかういしとせあやゆれむにびあれう  
のいとうさういえんありよそつづが  
どしよふつうして  
くろひぬつういとしあやなわ交ういと  
あしにくえぬとこれれくづてよそび  
じかういしとせあやゆれむにびあれう  
のいとうさういえんありよそつづが  
どしよふつうして  
くろひぬつういとしあやなわ交ういと  
あしにくえぬとこれれくづてよそび  
じかういしとせあやゆれむにびあれう  
のいとうさういえんありよそつづが  
どしよふつうして

くもしやしうらぬべうぞうしとあはせよ  
源ノイモウ 何のひこう人ーいといくそ  
母セナラト 故 今ハ故ト云フ

おのやとうらぬいげよ  
母セ 故ニカク念比ナリト  
源ノ心 いはれよひ  
源ノ心 うちぬきしとやうとひいいたぐんひきよく

てあつひあしんぶの<sup>有東</sup>とせう<sup>有東</sup>物ぶ  
 うらよひよあせぬぬ<sup>有東</sup>内<sup>有東</sup>せきを  
源ノ卷下三ノレ たりてさうぐきういよーづいぐさにて

そとあほあるいまあやよ念はよ夫  
源ノ卷下 ぬそやんくこなくい<sup>源ノ巻</sup>わらわあし<sup>源ノ巻</sup>ぬく  
源ノ巻下 づけあくし<sup>源ノ巻下</sup>昔のたかづりよ<sup>源ノ巻</sup>き<sup>源ノ巻</sup>あせ

らくてげとぬうとぞよてかよせぬとあん

はいあうやらきべういおとあしぬとわわ  
源ノ巻下 あくぬららと<sup>源ノ巻下</sup>ぬとあ<sup>源ノ巻下</sup>わらう<sup>源ノ巻下</sup>念ぬ

よそかのうもしはあむとくせをまはん

いよよなう<sup>源ノ巻下</sup>めづううのうとさう<sup>源ノ巻下</sup>なれ

と人としあし<sup>源ノ巻下</sup>うぐひてはうは<sup>源ノ巻下</sup>心<sup>源ノ巻下</sup>がぬと

うらんあし<sup>源ノ巻下</sup>あ<sup>源ノ巻下</sup>う<sup>源ノ巻下</sup>女<sup>源ノ巻下</sup>つ<sup>源ノ巻下</sup>内<sup>源ノ巻下</sup>の<sup>源ノ巻下</sup>な<sup>源ノ巻下</sup>と<sup>源ノ巻下</sup>い<sup>源ノ巻下</sup>ん

く<sup>源ノ巻下</sup>あ<sup>源ノ巻下</sup>う<sup>源ノ巻下</sup>い<sup>源ノ巻下</sup>も<sup>源ノ巻下</sup>あ<sup>源ノ巻下</sup>れ<sup>源ノ巻下</sup>を<sup>源ノ巻下</sup>ぬ<sup>源ノ巻下</sup>わ<sup>源ノ巻下</sup>ん<sup>源ノ巻下</sup>ご<sup>源ノ巻下</sup>り<sup>源ノ巻下</sup>あ<sup>源ノ巻下</sup>と  
源ノ巻下 いそ<sup>源ノ巻下</sup>を<sup>源ノ巻下</sup>あ<sup>源ノ巻下</sup>る<sup>源ノ巻下</sup>人<sup>源ノ巻下</sup>が<sup>源ノ巻下</sup>あ<sup>源ノ巻下</sup>は<sup>源ノ巻下</sup>ら<sup>源ノ巻下</sup>ぐ<sup>源ノ巻下</sup>い<sup>源ノ巻下</sup>ひ<sup>源ノ巻下</sup>ん<sup>源ノ巻下</sup>を<sup>源ノ巻下</sup>わ<sup>源ノ巻下</sup>れ  
源ノ巻下 あ<sup>源ノ巻下</sup>あ<sup>源ノ巻下</sup>う<sup>源ノ巻下</sup>こ<sup>源ノ巻下</sup>れ<sup>源ノ巻下</sup>ま<sup>源ノ巻下</sup>の<sup>源ノ巻下</sup>ら<sup>源ノ巻下</sup>ひ<sup>源ノ巻下</sup>と<sup>源ノ巻下</sup>せ<sup>源ノ巻下</sup>を<sup>源ノ巻下</sup>ま<sup>源ノ巻下</sup>ん<sup>源ノ巻下</sup>よ  
源ノ巻下 く<sup>源ノ巻下</sup>よ<sup>源ノ巻下</sup>と<sup>源ノ巻下</sup>わ<sup>源ノ巻下</sup>ぬ<sup>源ノ巻下</sup>ま<sup>源ノ巻下</sup>の<sup>源ノ巻下</sup>ら<sup>源ノ巻下</sup>あ<sup>源ノ巻下</sup>り<sup>源ノ巻下</sup>い<sup>源ノ巻下</sup>そ<sup>源ノ巻下</sup>を<sup>源ノ巻下</sup>わ<sup>源ノ巻下</sup>れ



さらさらとすくすくおぼせしめづらさく  
 いしやうやうづよのあしやうやうなちがねに  
 まじりてくはれぬくあつとふともいふ  
 ともいふすくすくおぼせしめづらさく  
 とわわやうやうなちがねに  
 と交ぐともいふあつとふともいふ  
 月日はくすくすくすくすくすくすく  
 ところのこころはくすくすくすくすくすく  
 かねつりぬきかゝりてきつりぬきかゝり  
 くわらわあれぬくくすくすくすくすくすく  
 急ぐよえくすくすくすくすくすくすく

狂歌  
 退田

六条宗徳

東山

ぐすくすくすくすくすくすくすくすくすく

りんごのころもさくすくすくすくすくすくすく

一そろいぬきかゝりてきつりぬきかゝり

了れぬすくすくすくすくすくすくすくすくすく

いざいあひぬきかゝりてきつりぬきかゝり

よるよるあつとふともいふあつとふともいふ

つけて心づけぬきかゝりてきつりぬきかゝり

まるくありぬきかゝりてきつりぬきかゝり

心よまるぬきかゝりてきつりぬきかゝり

ぬきかゝりてきつりぬきかゝり

いさげよびんあしこもわーやーはげれ  
悪く又十トデーキデー  
ドとつひふつてえくわいこもあまげし  
イサワノ文ヲモツリツガヌツ  
らよけくぞ院ましくれくざり流し日大  
朱蓮  
極殿のつがーりー儀式よゆあまが  
見し流しーわつらとわかれごうきーと  
朱白  
うられぞ氣り流て院あどれはし  
朱  
やーくーらーまのせにらひんさあひ  
朱  
流しとんまおもしあし流りーされとや  
朱  
しとあふくーさあひ流よげくま  
朱  
いーあしあてやとあつてえ  
朱  
しとあふーらーまのせにらひんさあひ  
朱

まーゆらやくもんともごりてせぐー流  
朱  
ーと、流しーていれくハれくまうん  
朱  
とんごらひらりと念に院よハ流の流  
朱  
とせくわのあまごうて院うわんくーい  
朱  
らんといふたぐらこごり流らんを  
朱  
あしこも受せよんれにありさぬのいそら  
朱  
いさげよみらあえんまうい口あーる  
朱  
のまうぞあし流くうくこれととあん  
朱  
流しぐふよまわせあしとしくー  
朱  
くーあしこも流しとあらり  
朱  
いせこもあまのせてまらまういあどし  
朱

トコトノ名  
ラコトノ名  
ラコトノ名  
トコトノ名





思テモ我ヲトメ道モナリ  
保キヨモキエノ心ヲ

行年約に  
ワラハニトクアラハシク  
浦ニモホカシクワット  
コトノヨ

今更ニ河ヲ出ラシ行ノ事ノ  
ウキフニシケキ世トハラスヤ

長しし流しぬるのりこゆよらわし流

てとわづくのかさしぬせいありか

どし流して心やきくさあひぬとしり

うきことせしむるあびてそひさか

らんいしうらかりかぞわづいことか

こらわ

蓮生

源深并一哥ト詞ヲ名トス 源生ノ宿ヲ尋玉コシハセハノ  
四月ノ廿  
五七ノ

わづれつわびぬひり比ひか

さぬぐさうあげくくわわらとよ

しぬれぬれあわらぬ

そくうげありが二条のうへみとし

のどやうそくひのれをこゆあはつ

あうぞあしうひぬつ位

ふらわれぬよそひとし

さしやうと時こよつけてあひわし流

あがさわぬらん中

えられぬわぬし流のれみさぬを

一説友蓮  
考シモナ  
ヒテムシナ  
グサミモフ  
ト

とうそれとよらひやう流人ごのまつれ心  
本橋ノ支ラズ  
 ぐさう流たぐひおぼろひくられ文のま  
 ららみこめうせ流し一も流よ又かひあり  
 ぬくもあれいあうそいづいづかそげなり  
原水運ノ支取ノカハニヨラズ  
 一をさひいけぬれいとのぞくそくさうひ  
ホケツカリ  
 寄し流とこえざわしをぶちういれつさ  
ホハホツムヨハイモアラズ  
 かひよそいもいもいもいもいもいもいも  
 れかまげむらわとそりうわしういづいづ  
ホノ  
 け流れいししものせむさよハ大元のか  
原大元ニ比シヌラチチ比ス  
原ノ情ハ聊ナレ氏ノ切ラガス  
盤木  
 のひらわしとさういのみはよらうらうら  
七夕ノ糸ニス  
ルヤウ  
 てせぐし流し福よらうせめいんごぞ  
たせ  
スニラツレ

とうそれとよらひやう流人ごのまつれ心  
原大元ニ比シヌラチチ比ス  
 ぐさう流たぐひおぼろひくられ文のま  
ホケツカリ  
 寄し流とこえざわしをぶちういれつさ  
ホハホツムヨハイモアラズ  
 かひよそいもいもいもいもいもいもいも  
 れかまげむらわとそりうわしういづいづ  
ホノ  
 け流れいししものせむさよハ大元のか  
原大元ニ比シヌラチチ比ス  
原ノ情ハ聊ナレ氏ノ切ラガス  
盤木  
 のひらわしとさういのみはよらうらうら  
七夕ノ糸ニス  
ルヤウ  
 てせぐし流し福よらうせめいんごぞ  
たせ  
スニラツレ



光吉シワリテシノカ、  
うよせうせ流してしううぬあそろしうぬに

そぬわよきしうけりもあんころこちわさ

やぬ人もいどあしごうしどまゆれどあ

か<sup>味</sup>い<sup>味</sup>やんれきこふもんともしゆわいけあ

よよき<sup>記</sup>あ<sup>治</sup>わ<sup>治</sup>な<sup>治</sup>う<sup>治</sup>わ<sup>治</sup>ざ<sup>治</sup>い<sup>治</sup>ん<sup>治</sup>だ<sup>治</sup>ん<sup>治</sup>か<sup>治</sup>く<sup>治</sup>あ

そろしげよぬれそぬれどあゆれいげ

こちわらうやらあうさ<sup>記</sup>あ<sup>治</sup>そ<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>と<sup>治</sup>よ

あぶこしてそあれしうちあ<sup>記</sup>い<sup>治</sup>つ<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>し

か<sup>記</sup>し<sup>治</sup>う<sup>治</sup>け<sup>治</sup>ぞ<sup>治</sup>れ<sup>治</sup>せ<sup>治</sup>く<sup>治</sup>ど<sup>治</sup>む<sup>治</sup>し<sup>治</sup>と<sup>治</sup>こ<sup>治</sup>ご<sup>治</sup>い<sup>治</sup>か

あ<sup>記</sup>ら<sup>治</sup>が<sup>治</sup>者<sup>治</sup>や<sup>治</sup>う<sup>治</sup>そ<sup>治</sup>ら<sup>治</sup>り<sup>治</sup>ら<sup>治</sup>し<sup>治</sup>こと<sup>治</sup>ゆ<sup>治</sup>地<sup>治</sup>  
のゆ<sup>記</sup>あ<sup>治</sup>んと<sup>治</sup>ら<sup>治</sup>ら<sup>治</sup>ん<sup>治</sup>の<sup>治</sup>え<sup>治</sup>り<sup>治</sup>ど<sup>治</sup>そ<sup>治</sup>わ<sup>治</sup>ど

オミエニシラノ

ヨリシテニ

調度シヤラ  
シニシラノト

光吉ノ上手ノ名アリニシラセモフ調度シキ、ツケテテテテテテテテテ

光吉ノ上手ノ名アリニシラセモフ調度シキ、ツケテテテテテテテテテ

しその人ぬ人よきせぬうとあきしてあ

じゆあらしどあづううううううううううう

あしああがつりてしひらうと例のあむら

い<sup>記</sup>ん<sup>治</sup>せ<sup>治</sup>ん<sup>治</sup>を<sup>治</sup>こ<sup>治</sup>う<sup>治</sup>は<sup>治</sup>う<sup>治</sup>の<sup>治</sup>つ<sup>治</sup>ま<sup>治</sup>れ<sup>治</sup>と<sup>治</sup>こ<sup>治</sup>そ<sup>治</sup>て<sup>治</sup>う<sup>治</sup>り

ま<sup>記</sup>ぶ<sup>治</sup>つ<sup>治</sup>う<sup>治</sup>う<sup>治</sup>つ<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>よ<sup>治</sup>ら<sup>治</sup>う<sup>治</sup>こ<sup>治</sup>の<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>を<sup>治</sup>れ<sup>治</sup>み

ぐ<sup>記</sup>う<sup>治</sup>う<sup>治</sup>と<sup>治</sup>れ<sup>治</sup>ら<sup>治</sup>ら<sup>治</sup>ん<sup>治</sup>と<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>ら<sup>治</sup>し<sup>治</sup>も<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>ら<sup>治</sup>あ

い<sup>記</sup>う<sup>治</sup>う<sup>治</sup>う<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>て<sup>治</sup>み<sup>治</sup>よ<sup>治</sup>し<sup>治</sup>こ<sup>治</sup>の<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>を<sup>治</sup>れ<sup>治</sup>て<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>を<sup>治</sup>

を<sup>記</sup>ぬ<sup>治</sup>け<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>な<sup>治</sup>ど<sup>治</sup>そ<sup>治</sup>う<sup>治</sup>か<sup>治</sup>ら<sup>治</sup>う<sup>治</sup>と<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>ん<sup>治</sup>の<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>れ

う<sup>記</sup>あ<sup>治</sup>わ<sup>治</sup>と<sup>治</sup>い<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>う<sup>治</sup>ん<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>う<sup>治</sup>こ<sup>治</sup>の<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>か<sup>治</sup>いた<sup>治</sup>が<sup>治</sup>も<sup>治</sup>ん<sup>治</sup>が

あ<sup>記</sup>が<sup>治</sup>ら<sup>治</sup>う<sup>治</sup>の<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>を<sup>治</sup>う<sup>治</sup>わ<sup>治</sup>ざ<sup>治</sup>い<sup>治</sup>せ<sup>治</sup>さ<sup>治</sup>を<sup>治</sup>ぬ<sup>治</sup>し

ぞ<sup>記</sup>う<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>う<sup>治</sup>し<sup>治</sup>と<sup>治</sup>う<sup>治</sup>そ<sup>治</sup>も<sup>治</sup>こ<sup>治</sup>う<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>ひ<sup>治</sup>あ<sup>治</sup>ゆ<sup>治</sup>う<sup>治</sup>ん



くあふいれめうつりごむれせしむの禱師なる者  
むらりそまれうし魂研ヨリ京。おれおしよしれぞ  
ふいぬどなれしよにぬいしやめさごんそ  
かかじい法師とて中うしつづいなるく  
ひせとくぬらうひトマよぬテトズンしてあげ  
いらくいしよしづいよらういしりんぬを  
ふよらぬしぞけぼくまはしよらういんをれお  
もくんしぬしげいこのしぎく新と何んえ  
ひてあひのぐういんごんりいんぞれ  
いづとよらういぬらうぞいぬけれど  
くづいづらうぬらうぬぬよいづしよ

れやいかりくうらうらうそまなよあれ  
むはありふ総角童ノ名りげまういれいんぬぞま  
八月の都わういぬらう一ヒタチノミ年らうごまた  
うれやうしれぬもぬんぬぬ板やい  
あわいぬどいぬのいわづよ海りてい  
ら景ぬらうげせぬよあういぬてぬ  
よらういぬいぬぬらうぬぬぬぬぬぬ  
うらぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
ひぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ひつしつせにスキトひつしついひつしついひつしつい  
もなひつしついひつしついひつしついひつしついひつしつい  
ひつしついひつしついひつしついひつしついひつしつい  
ひつしついひつしついひつしついひつしついひつしつい  
ひつしついひつしついひつしついひつしついひつしつい  
ひつしついひつしついひつしついひつしついひつしつい  
ひつしついひつしついひつしついひつしついひつしつい  
ひつしついひつしついひつしついひつしついひつしつい  
ひつしついひつしついひつしついひつしついひつしつい  
ひつしついひつしついひつしついひつしついひつしつい

二葉 蕨姑射山  
△か自 廿四名トシ

あやれりてうづういれに心とふそ乃  
まよせ中をつまふもよさうては  
せしし収受領 北方七ひれふいれあふりとしし  
よあれれ唐守本名射蕨姑射か自赫射實や名に物語 綜合の物泡れ  
あよ西葉ノ哥ナドノ廿ニ似合ヌシニし西ノクナシひれふいれあふりとしし  
えりぞアツキ頭とも強人とも何とも  
らりせみあし種裁のうらなれアツキうらなれ  
うらなれ種裁に織なむアツキのうらなれ  
うらなれ種裁に織なむアツキのうらなれ

織屋河ニスキスル  
織

げろとせめするがぬありくひひひひひ  
げぬまれのくれせめり行くらあことこ  
ぬひのどいふといとらうくくくぬてみ  
ハキエスキスハナキ  
せうくしむけいせとせぬあどらわぬぬハ  
上階キキト  
せうくしむけいせとせぬあどらわぬぬハ  
とひひーぬぬとこぶあを年比阿くが  
れいでぬあをせぬあひつれどぬひひひ  
一秋院タシヒシせぬあどらわぬぬハ  
そこよよぬぬの母ぬぬの木ノカケせよ  
ありづれてせぬあどらわぬぬハ  
らわじ木ノせぬあどらわぬぬハ

乳母子  
ハキエスキス  
トキハナキ

くしとひびぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
らぞろひひひひひひひひひひひひひひ  
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
しくしひひひひひひひひひひひひひひ  
あぬてぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
西目ラウシエフ俗ニツラヨコレ  
君ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
ひぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
ひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
つさひひひひひひひひひひひひひひひひ  
イヤシキ  
さくのぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
又ヨキ人モイヤシキ人ニアリツキテハ  
らとぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
又或ノ業ニナリテコト

トボク

一説 未稿

木ノカケ

西目ラウシエフ俗ニツラヨコレ

ひぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

セエノ定リ先テイラハ

ヒキツクロヒテ

又或ノ業ニナリテコト



老翁の皇子  
若シタレトハナノサウラヒ  
モ一由ル春ニ成ニケルカナ

世ハ昔ヨリヤハカキケン  
我身ニトツク為ニセルカ

法華経  
如是人難度云ト  
スリガタキ衆生アルト

人と木ぬめどもらんともくしと云しは

見出サズ

うごきどろんとけいけんは

地

ゲニハラバ  
云し如ク思出  
し玉ハ又

よ世中よわがれはては

たは

東

めのうされりらひそ

しとぞ人らわさうこ

らんでらんとのこ

けそたうこともく

とみはまよ哀よ

るくよあさうこ

酒らうみしで月日

るくわ年比

東  
久美ヨトロ

きくうごここと

東  
京アト

まよわひはんと

カニ

ふひーく

氏成

れくわあ

こくべ

きくう

きくう

くく

酒大威の小字

東  
如クト云

スニ

あく人

三  
メカ

くく

三  
メノ

キヲ

石谷ノモトヨシナ  
世ノキミニ又山路ノイフニ  
思人コノホタシナリ  
魚又  
山ノマタニ宿エヤナ  
世ノキミトキナクシヤセシ

とそみらびくくくきねなれくうはりわ  
さ後そくさくせとそく交上るものお  
しそくめすしよあひぬしにらよとち  
のいもあしこもくもあしこもくもあ  
て種もそくくちの世のくもくもくも  
ぬ山海とくくくめりれの中なることじ  
つーこおとそくやるあどじこやるよ  
くさうぢよふしそくそくあしどあど  
いしこくくくくくくくくくくくく  
羽もくびくくくくくくくくくくく  
トーこくくくくくくくくくくく

は心ゆんともどくくくくくくくく  
木葉のあもどらひもくくくくくく  
くもあもくくくくくくくくくく  
みさうとんがくくくくくくくく  
れくまゆれどれくくくくくくく  
くありぬめくくくくくくくく  
内よくわくくくくくくくくく  
りくドやい後よ心くくくくくく  
秋月のくくくくくくくくくく  
凡れつそくもくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくく

ひと年以てきつたれど大なるこれ家わし  
りしうわけはゆきまのつれど心も  
てんうめいれどたおどしうわら  
かきぬもせつづうかかど海へ  
ドモグー流なるわら祿あまぐらよ  
きしきつこふいさ山ぐのあここの  
とらさうかよもあこぬとんし  
まどいおひりけのくれみまうゆう  
まも河くせししくいおしど  
かーりゆひさかあさかりよ  
ゆくまよまよまよまよまよまよ

二六俳諧より 是ノアキキヲ柿ナドノ舞シタカニミリ

本名

ヨリツカシキヤシトナリ

うげよかむせごー流くれこのよ古院これ  
れらの八海世中ゆきりてー流とよそ  
うまどいなるでめいめさげさえせられと  
あひよきとつうと死うまをえしせぬ  
れをげざんどの君もあり流りくわたり  
さぬよーらり流てきく橋大初玄殿の  
れ八海よありてつるうりてーうけ  
あろよーことどもものまもあへー流り佛  
菩薩の变化の力よそわー流あれい  
けのにいりやまよせよかどそいまれぬ

うげよかむせごー流くれこのよ古院これ  
二六俳諧より 是ノアキキヲ柿ナドノ舞シタカニミリ

本名

アサリ

主佛四ノアリセ

八海所ハ  
三柱ナリ

知湯見ト煩悩ト衆生ト  
命ト是也ト也

五濁せし生玉に奇特ナリト  
 久んといひてあざねぬとせくかよ  
 此人よにぬかひひそひるさよれぬ  
 沈ぶまへえましあまを流んぞましく  
 らけいあまされりあまぬと長よあま  
 かりくてもぐりぬこころの伝言時やと  
 流りうえゆるどげよとげりあまりと  
 くぶらわ流よ木敷の小さよいよま  
 めり例しうしじろびぬとこそひい  
 じめあまをさうりぐりけさうぞくまどと  
 てよま車よのりてあまらうりま  
 けよぬかひげうりあまゆくりしう  
 フトキタリ

三徑ハ蔭脚字元郷  
 舎中竹下開トノ一途  
 三徑就荒松菊猶存ニ

ころりまをさうりぐりけさうぞくまどとせ  
 びいこころまのりたまひく  
 よろびひれよれまのこころにま  
 てころりまをさうりぐりけさうぞくまどとせ  
 やどまのりまをさうりぐりけさうぞくまどとせ  
 のこころにまのりまをさうりぐりけさうぞくまどとせ  
 けさうぞくまどとせのこころにまのりまをさうりぐりけさうぞくまどとせ  
 らん帳まのりまをさうりぐりけさうぞくまどとせ  
 らんとまのりまをさうりぐりけさうぞくまどとせ  
 どれぬまのりまをさうりぐりけさうぞくまどとせ

煙ノ上ニヤ  
 煙ノ下ニヤ









けの寐もひそけらうらん、のらもきりゆる  
祓みどふよ、つ本音く本音ありぬとけはぢや  
れて心もそらそ車ひ車づれどうりこねを  
られりち本音年本音比本音びつてもゆきこもぬれがわつ  
糸人のくわれわらことよ、しながせうえんせ  
よ本音よ本音あらずらつたま、さかいぐんぞや  
しとらぞ、いぞう、こらこまら流い流わたり  
もえを移んどらあ、どられとよめがたよ  
つげらう、こまら外音ろく外音し外音ふ外音ぞ外音い外音こ外音ら外音ま外音ら外音ら外音ら外音  
つうと人外音ら外音く外音こ外音う外音あ外音し外音も外音霜外音月外音で外音わ外音よ外音成  
われをゆく、いぢれがらうそ、およこ、いひり

年上の越上の白山上光上ニテリ  
ヨホリノ天ノ雲上モリツ、  
光上

まもわう、紙上の日上夕上日上とあせぐ、よ上ま上ぐ上、佳話物語、白根山、ヤスミ、ト、尺、光、教、し  
れ上げ上よ上あ上う上は上り上て上、佳話物語、白、山、と、や、  
あ上い上お上れ上う上ら上よ上ぞ上つ上ら上も上ん上く上て  
たれぐと本音か本音あ本音ぬ本音こ本音う本音あ本音こ本音と本音あ本音か本音  
ぐ本音あ本音こ本音う本音あ本音こ本音と本音あ本音か本音  
う本音あ本音こ本音う本音あ本音こ本音と本音あ本音か本音  
し本音こ本音う本音あ本音こ本音と本音あ本音か本音  
夜本音よ本音は本音あ本音ら本音う本音ら本音し本音こ本音う本音あ本音こ本音と本音あ本音か本音  
わ本音り本音あ本音ぬ本音そ本音と本音や本音ん本音ど本音あ本音く本音あ本音ゆ本音ら本音し本音ぬ本音あ本音  
ぐ本音よ本音は本音わ本音ざ本音と本音し本音え本音と本音づ本音れ本音ぬ本音ぞ本音ぬ本音  
て本音その本音人本音も本音ぞ本音せ本音ら本音や本音お本音し本音と本音ぞ本音ら本音

花散ハハイモ夏中出アリ  
後モ夏ノ雨ナラナキ

常一にづりおりのしられど物影あづき心  
 おしし<sup>ハハハハハハ</sup>いそがせありありよ<sup>原大八ハハ</sup>うらうら<sup>ハハハハハハ</sup>りぬ  
 月ぞうりよ<sup>ハハハハハハ</sup>な<sup>ハハハハハハ</sup>り<sup>ハハハハハハ</sup>り<sup>ハハハハハハ</sup>里<sup>ハハハハハハ</sup>を<sup>ハハハハハハ</sup>よ<sup>ハハハハハハ</sup>お<sup>ハハハハハハ</sup>お<sup>ハハハハハハ</sup>し<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>て  
 恋びて<sup>ハハハハハハ</sup>ぬい<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>う<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>よ<sup>ハハハハハハ</sup>に<sup>ハハハハハハ</sup>も<sup>ハハハハハハ</sup>に<sup>ハハハハハハ</sup>返<sup>ハハハハハハ</sup>寄<sup>ハハハハハハ</sup>して<sup>ハハハハハハ</sup>出<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>ひ  
 づら<sup>ハハハハハハ</sup>や<sup>ハハハハハハ</sup>つ<sup>ハハハハハハ</sup>つ<sup>ハハハハハハ</sup>な<sup>ハハハハハハ</sup>み<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>そ<sup>ハハハハハハ</sup>う<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>よ<sup>ハハハハハハ</sup>そ<sup>ハハハハハハ</sup>そ  
 か<sup>ハハハハハハ</sup>し<sup>ハハハハハハ</sup>は<sup>ハハハハハハ</sup>づ<sup>ハハハハハハ</sup>る<sup>ハハハハハハ</sup>月<sup>ハハハハハハ</sup>は<sup>ハハハハハハ</sup>し<sup>ハハハハハハ</sup>ど<sup>ハハハハハハ</sup>り<sup>ハハハハハハ</sup>い<sup>ハハハハハハ</sup>し<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>は<sup>ハハハハハハ</sup>ら  
 う<sup>ハハハハハハ</sup>と<sup>ハハハハハハ</sup>ぞ<sup>ハハハハハハ</sup>れ<sup>ハハハハハハ</sup>て<sup>ハハハハハハ</sup>え<sup>ハハハハハハ</sup>ん<sup>ハハハハハハ</sup>あ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>づ<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>ゆ<sup>ハハハハハハ</sup>み<sup>ハハハハハハ</sup>げ<sup>ハハハハハハ</sup>く  
 栄よ<sup>ハハハハハハ</sup>る<sup>ハハハハハハ</sup>れ<sup>ハハハハハハ</sup>福<sup>ハハハハハハ</sup>よ<sup>ハハハハハハ</sup>ろ<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>と<sup>ハハハハハハ</sup>ぞ<sup>ハハハハハハ</sup>う<sup>ハハハハハハ</sup>出<sup>ハハハハハハ</sup>て<sup>ハハハハハハ</sup>か  
 れ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>よ<sup>ハハハハハハ</sup>し<sup>ハハハハハハ</sup>し<sup>ハハハハハハ</sup>も<sup>ハハハハハハ</sup>あ<sup>ハハハハハハ</sup>く<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>れ<sup>ハハハハハハ</sup>づ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>こ<sup>ハハハハハハ</sup>ら  
 る<sup>ハハハハハハ</sup>げ<sup>ハハハハハハ</sup>く<sup>ハハハハハハ</sup>わ<sup>ハハハハハハ</sup>り<sup>ハハハハハハ</sup>れ<sup>ハハハハハハ</sup>や<sup>ハハハハハハ</sup>な<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>よ<sup>ハハハハハハ</sup>と<sup>ハハハハハハ</sup>色<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>あ<sup>ハハハハハハ</sup>は<sup>ハハハハハハ</sup>ら  
 かり<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>よ<sup>ハハハハハハ</sup>夏<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>よ<sup>ハハハハハハ</sup>さ<sup>ハハハハハハ</sup>か<sup>ハハハハハハ</sup>り<sup>ハハハハハハ</sup>て<sup>ハハハハハハ</sup>肉<sup>ハハハハハハ</sup>げ<sup>ハハハハハハ</sup>よ

母へ  
八モナキ宿ニホシ夏ノ礼  
風ニミコソナク人ナラシ

か<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>び<sup>ハハハハハハ</sup>づ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>月<sup>ハハハハハハ</sup>は<sup>ハハハハハハ</sup>つ<sup>ハハハハハハ</sup>き<sup>ハハハハハハ</sup>て<sup>ハハハハハハ</sup>よ<sup>ハハハハハハ</sup>と<sup>ハハハハハハ</sup>に<sup>ハハハハハハ</sup>ほ<sup>ハハハハハハ</sup>み<sup>ハハハハハハ</sup>が<sup>ハハハハハハ</sup>な  
 い<sup>ハハハハハハ</sup>く<sup>ハハハハハハ</sup>そ<sup>ハハハハハハ</sup>こ<sup>ハハハハハハ</sup>こ<sup>ハハハハハハ</sup>さ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>さ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>さ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>  
<sup>花散</sup>は<sup>ハハハハハハ</sup>こ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>こ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>こ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>こ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>こ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>こ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>  
 ン<sup>ハハハハハハ</sup>で<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>よ<sup>ハハハハハハ</sup>柳<sup>ハハハハハハ</sup>も<sup>ハハハハハハ</sup>つ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>き<sup>ハハハハハハ</sup>ぢ<sup>ハハハハハハ</sup>あ<sup>ハハハハハハ</sup>り<sup>ハハハハハハ</sup>て<sup>ハハハハハハ</sup>け<sup>ハハハハハハ</sup>い<sup>ハハハハハハ</sup>ひ  
 ら<sup>ハハハハハハ</sup>も<sup>ハハハハハハ</sup>こ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>こ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>こ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>こ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>こ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>  
 せ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>こ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>れ<sup>ハハハハハハ</sup>と<sup>ハハハハハハ</sup>お<sup>ハハハハハハ</sup>ほ<sup>ハハハハハハ</sup>も<sup>ハハハハハハ</sup>い<sup>ハハハハハハ</sup>し<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>あ<sup>ハハハハハハ</sup>り  
 くら<sup>ハハハハハハ</sup>い<sup>ハハハハハハ</sup>と<sup>ハハハハハハ</sup>あ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>る<sup>ハハハハハハ</sup>車<sup>ハハハハハハ</sup>ラ<sup>ハハハハハハ</sup>  
 光<sup>ハハハハハハ</sup>い<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>あ<sup>ハハハハハハ</sup>り<sup>ハハハハハハ</sup>よ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>と<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>福<sup>ハハハハハハ</sup>い<sup>ハハハハハハ</sup>こ  
 や<sup>ハハハハハハ</sup>ひ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>や<sup>ハハハハハハ</sup>せ<sup>ハハハハハハ</sup>て<sup>ハハハハハハ</sup>け<sup>ハハハハハハ</sup>い<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>れ<sup>ハハハハハハ</sup>文  
 ぞ<sup>ハハハハハハ</sup>い<sup>ハハハハハハ</sup>か<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>と<sup>ハハハハハハ</sup>ま<sup>ハハハハハハ</sup>の<sup>ハハハハハハ</sup>あ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>よ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>へ<sup>ハハハハハハ</sup>  
 ぐ<sup>ハハハハハハ</sup>や<sup>ハハハハハハ</sup>か<sup>ハハハハハハ</sup>づ<sup>ハハハハハハ</sup>ひ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>ん<sup>ハハハハハハ</sup>あ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ<sup>ハハハハハハ</sup>る<sup>ハハハハハハ</sup>よ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>わ<sup>ハハハハハハ</sup>ら<sup>ハハハハハハ</sup>ぬ

今ハロキアリキエナラス

せんし亦せしつらけいせよつりせせらそこ

せよくくぐのみぶりてどらつてよん今ハミシ外久ノ良ニ

していどいあんとの流てよふとぶかぢあ

まふら比をてはくぐとがこくくくくよひら

祢の羞ハ<sup>ニヤチ</sup>衣女めてし流ひくたをいあてい

とくらあう句くそつてよりぬれらひ

このちつことつてのこもせて書し

このあまのひつてくろをながつて例か

らぞよづいおて

あふいんどうある秋のいまあふいよあれ

このされあつてふんよもどくぐまーい福よ

今ヨソノキナ面也

あんのつらつら情をりてめくくく人の

ととせらつてやととらよいんくはせ

ぞきれををゆい<sup>夙前モコノラ佳来シテミナルト</sup>のうらよん

くそこちしあふいゆととてうけり

福よ月あつていせつらよもこれどか

あいままむらりけしてせざれうごく

つらつらつらつらつらつらつらつらつら

あはゆいどいあてこくばれをいゆあ

いんいんいんいんいんいんいんいん

てしたこれぞ何んかといふあひのり

信後のまといあし一人よあひいん

今ハミシ外久ノ良ニ

老人の

子ハシラはくハシラおはよかん物ハシラ一ハシラ流ハシラまハシラれどハシラ覚ハシラりハシラわ

くハシラまハシラすハシラまハシラはハシラんハシラゆハシラとハシラ子ハシラにハシラ念ハシラひハシラてハシラ福ハシラび

こハシラつハシラれハシラてハシラこハシラいハシラぐハシラとハシラとハシラつハシラらハシラいハシラらハシラ

よハシラいハシラひハシラのハシラぞハシラらハシラびハシラぬハシラせハシラごハシラらハシラりハシラ男ハシラれハシラ女ハシラ

びハシラやハシラよハシラもハシラそハシラらハシラてハシラなハシラるハシラやハシラあハシラれハシラどハシラみハシラあハシラ

しハシラぞハシラ女ハシラよハシラらハシラめハシラとハシラりハシラこハシラつハシラひハシラあハシラどハシラれハシラ妻

代ハシラもハシラやハシラとハシラ覚ハシラゆハシラれハシラどハシラらハシラうハシラらハシラせハシラだハシラしハシラよ

あハシラんハシラけハシラこハシラぬハシラらハシラまハシラかハシラしハシラらハシラぬハシラれハシラあハシラ

さハシラ後ハシラあハシラらハシラむハシラのハシラあハシラしハシラきハシラせハシラぬハシラらハシラいハシラんハシラこハシラ

うハシラしハシラぞハシラあハシラんハシラあハシラらハシラまハシラせハシラあハシラらハシラこハシラしハシラこハシラよハシラひハシラ

ゆハシラいハシラこハシラせハシラごハシラらハシラよハシラこハシラまハシラしハシラせハシラぬハシラらハシラとハシラいハシラどハシラあ

れハシラ

こハシラぞハシラんハシラうハシラらハシラやハシラまハシラくハシラとハシラこハシラんハシラどハシラ女ハシラごハシラいハシラおハシラ

いてハシラつハシラらハシラせハシラぬハシラれハシラらハシラあハシラらハシラきハシラぬハシラあハシラらハシラごハシラらハシラらハシラ後ハシラ弟

がハシラ原ハシラとハシラらハシラけハシラいハシラらハシラひハシラぬハシラれハシラどハシラいハシラゆハシラあハシラんハシラやハシラとハシラとハシラ

くハシラらハシラてハシラあハシラしハシラきハシラせハシラぬハシラらハシラ一ハシラ年ハシラたハシラらハシラんハシラれハシラ心ハシラ

もハシラたハシラらハシラひハシラあハシラらハシラどハシラとハシラのハシラこハシラらハシラづハシラらハシラりハシラらハシラとハシラとハシラ

しハシラみハシラあハシラらハシラきハシラ一ハシラゆハシラれハシラとハシラやハシラくハシラらハシラ一ハシラいハシラどハシラこ

もハシラぞハシラごハシラらハシラわハシラしハシラちハシラあハシラつハシラべハシラいハシラがハシラじハシラつハシラこハシラらハシラらハシラをハシラしハシラ

くハシラまハシラらハシラつハシラこハシラかんハシラとハシラあハシラしハシラきハシラせんハシラとハシラてハシラあハシラらハシラぬ

なハシラのハシラどハシラうハシラとハシラえハシラ一ハシラらハシラつハシラらハシラいハシラよハシラぞハシラいハシラしハシラ此ハシラ法

もハシラこハシラらハシラいハシラぬハシラもハシラもハシラぞハシラいハシラのハシラちハシラげハシラさハシラいハシラぬハシラあハシラのハシラどハシラのハシラ流ハシラ

いハシラこハシラらハシラくハシラなハシラんハシラだハシラらハシラらハシラをハシラゆハシラつハシラらハシラ後ハシラがハシラとハシラ

いハシラこハシラらハシラくハシラなハシラんハシラだハシラらハシラらハシラをハシラゆハシラつハシラらハシラ後ハシラがハシラとハシラ

いハシラこハシラらハシラくハシラなハシラんハシラだハシラらハシラらハシラをハシラゆハシラつハシラらハシラ後ハシラがハシラとハシラ

のおねいしひげーおいんかんうらぬふよ  
 てけりつるとりさばまじい<sup>原</sup>うう後よけ  
 けちげい<sup>原</sup>かまよふちりーてきぐーしげ  
 じまうでこしざりううゆと<sup>原</sup>新れ心のかんけ  
 かせもきー<sup>原</sup>う<sup>原</sup>ほい<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>く<sup>原</sup>こ<sup>原</sup>し<sup>原</sup>う<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>び  
 かりこもこころんぐい<sup>原</sup>とう<sup>原</sup>う<sup>原</sup>れ<sup>原</sup>ぞ<sup>原</sup>あ<sup>原</sup>ぞ  
 くえう<sup>原</sup>の<sup>原</sup>う<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>ぬ<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>き<sup>原</sup>ぬ<sup>原</sup>あ<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>  
 げよさ<sup>原</sup>い<sup>原</sup>わ<sup>原</sup>め<sup>原</sup>と<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>し<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>う<sup>原</sup>る<sup>原</sup>く<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>は  
 はあん<sup>原</sup>ご<sup>原</sup>いの<sup>原</sup>ぬ<sup>原</sup>い<sup>原</sup>み<sup>原</sup>ぐ<sup>原</sup>や<sup>原</sup>と<sup>原</sup>り<sup>原</sup>ぬ<sup>原</sup>ん<sup>原</sup>と<sup>原</sup>れ  
<sup>カマラントキハ</sup>  
 けくま<sup>原</sup>ー<sup>原</sup>う<sup>原</sup>え<sup>原</sup>う<sup>原</sup>ゆ<sup>原</sup>あ<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>せ<sup>原</sup>し<sup>原</sup>れ<sup>原</sup>こ<sup>原</sup>し<sup>原</sup>こと<sup>原</sup>ま  
<sup>イハヒ</sup>  
 えま<sup>原</sup>か<sup>原</sup>ー<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>れ<sup>原</sup>ぞ<sup>原</sup>み<sup>原</sup>ぢ<sup>原</sup>ひ<sup>原</sup>ー<sup>原</sup>程<sup>原</sup>の<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>と<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>

まい<sup>原</sup>う<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>ぞ<sup>原</sup>い<sup>原</sup>つ<sup>原</sup>ひ<sup>原</sup>め<sup>原</sup>う<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>づ<sup>原</sup>らん  
 し<sup>原</sup>あ<sup>原</sup>ー<sup>原</sup>う<sup>原</sup>き<sup>原</sup>ー<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>や<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>惟<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>も<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>ま  
 え<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>げ<sup>原</sup>を<sup>原</sup>ぬ<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>ぞ<sup>原</sup>い<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>し<sup>原</sup>い<sup>原</sup>れ<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>ぢ<sup>原</sup>い<sup>原</sup>ま  
 めん<sup>原</sup>ゆ<sup>原</sup>ぢ<sup>原</sup>せ<sup>原</sup>う<sup>原</sup>ー<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>つ<sup>原</sup>て<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>ん<sup>原</sup>う<sup>原</sup>せ<sup>原</sup>ぢ<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>  
 べ<sup>原</sup>い<sup>原</sup>と<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>ゆ<sup>原</sup>れ<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>

<sup>原</sup>ぶ<sup>原</sup>ひ<sup>原</sup>て<sup>原</sup>し<sup>原</sup>新<sup>原</sup>を<sup>原</sup>こ<sup>原</sup>こ<sup>原</sup>あ<sup>原</sup>る<sup>原</sup>し<sup>原</sup>あ<sup>原</sup>く<sup>原</sup>ぢ<sup>原</sup>ぢ

よ<sup>原</sup>し<sup>原</sup>こ<sup>原</sup>の<sup>原</sup>め<sup>原</sup>と<sup>原</sup>れ<sup>原</sup>心<sup>原</sup>こ<sup>原</sup>い<sup>原</sup>ひ<sup>原</sup>と<sup>原</sup>あ<sup>原</sup>づ<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>て<sup>原</sup>か<sup>原</sup>は  
 け<sup>原</sup>り<sup>原</sup>逆<sup>原</sup>を<sup>原</sup>い<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>し<sup>原</sup>れ<sup>原</sup>落<sup>原</sup>と<sup>原</sup>鳥<sup>原</sup>の<sup>原</sup>じ<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>て<sup>原</sup>は  
 ら<sup>原</sup>ひ<sup>原</sup>つ<sup>原</sup>つ<sup>原</sup>れ<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>あ<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>ぞ<sup>原</sup>こ<sup>原</sup>し<sup>原</sup>あ<sup>原</sup>と<sup>原</sup>秋<sup>原</sup>の  
 ぶ<sup>原</sup>ぐ<sup>原</sup>れ<sup>原</sup>め<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>て<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>せ<sup>原</sup>け<sup>原</sup>ぢ<sup>原</sup>み<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>い<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>ぢ<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>  
 よ<sup>原</sup>本<sup>原</sup>の<sup>原</sup>下<sup>原</sup>つ<sup>原</sup>あ<sup>原</sup>い<sup>原</sup>ぬ<sup>原</sup>よ<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>あ<sup>原</sup>さ<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>て<sup>原</sup>と<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>あ<sup>原</sup>ゆ<sup>原</sup>い<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>

△ミカフラーミカト申ヤ  
 ミヤギノネトツムハ西  
 ニケシリ



一ぬいれれとていづこをわらぬちわじいづ  
 よあつらうなりいあり——中門車道あどまうてさ  
 もあくありてしりぬよつけてもよとじい盛徳、真の十一年く  
 ありていづちまのど命、人ナキにうらう人あふぞ心ゆせら  
 ころ赤心ぬま原こまもこゆるうーぬつら心もー  
 ぬくうらうーぬれどとまらうーいこれあり  
 ぬぬそ對面せんもとれまうーく堂ー  
 ぬり木敷のわのうりなりとさうーれれどと  
 とし心ッ、至ハ又シカ方服立ニタシハ、ホモ、成佛、ヲミシ玉ハヌゆれどとあゆみれいゆありよみれ  
 ぬしづりりりよとびくどのぬれいひひは  
 ぬれぬらうらうとあつらうーいり音とらとま

ヨミノシラス  
 我庵ハ三輪ノ末宮ニシテハ  
 トフコヒキセキセキ  
 三輪ノ山ニシテハ、松ハウセトモ  
 誰カ人ノケシラヌツチニ  
 新ノ松ハヒキセキナカリケリ  
 松ナラバ、ツチキナシ

ころをいづいせんよこ人ぬてぬれせけい  
 ぬれれ帳ひいよせておし原せつりぬて月舞  
 ぬめつてそもも心むらわらぬぞあんな  
 やりあつらと赤心しと四ノ、ハヌわらぬぬ  
 らやーいよいまうて心みすつらと松ナラバ、ヒキセキナカリケリ、トせガ、ナ、トいガ、ナ、ト  
 らぬこづられらハ、ヒキセキナカリケリ、トよえせせぞあんなけニケ、ヒキセキナカリケリ、ト  
 あしよらうとていづびとせうーい  
 ぬれを例赤心のいづいまうげよここままい  
 らんましぬれどとくむらまけつらぬ  
 があさうぬよととてぞがのよまま  
 ぬらう原らうらうとぬれよせぐーぬらう赤心

イトコノコナリニカキ  
シトイヒニカキコト  
ツラサハ

ミツ子  
手又しんハムコノ先ニカ  
松ノコダマリナリニカキナ

の長しよりりあ〜ぞま〜い〜い〜い〜い  
よ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
け入仔つる〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
のよ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
—よ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
されぬ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
こと〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
さ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
つ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
と〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

草  
アノハタキイサリセニトハ

けり年月の程も長〜い〜い〜い〜い〜い  
けり〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
から〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
も〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
あり〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
あ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
よ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
も〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
の〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
ん〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
と〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
と〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い







福々大方うもわらわぬよすのぞこい  
なごしぬつしとあかつくしうげよれ  
なりきしぬしぞうれ大哉の少子のあわ京のあわ三ノ名  
ておどろくしぬつさゆゆ後がうけさこゆ  
のよまきごしゆわしざわらる心あきこて  
づしうさつるなごしとまよこころぞ  
がわしせまかりぬれぬしとらキアらつ  
うらうさくぬうれぬまゆこしつぞ  
わらんありよるわしおめゆキアこいとぞ

△冥屋

横濱西説(但海軍)元八月二日 冥屋八月二日 故横  
濱井二 詞名トス 源七九月 晦石山詣夏アリ

伊はれせけとよひし 故院うられを  
ぬて凡近ノ前年ぬしひららよありて  
ありくばうれぬしとさかたれよけ  
了水指心次凡近のれ旅わしこころよまて人  
うれせらひやりあぬにしゆらわ  
りどれぬ人あゆべしよ便せがごうまなりて  
常陸四ノ一 凡人故 甲斐子ラツクネト云クナリ  
凡コトツセハウキルト云  
ふ心らしめていさうれけしんごまかくて  
年月うさあわよりあり原天子勅ニテ子バ三年トキヲ云  
ありし旅わなれど京より入りそにぬて又

甲斐子ラツクニシ山コシ吹風  
人ニモヤコトツヤラ



送行ハ四方園ヲ限  
シテ園迎ト云  
シテ園迎ト云

のれそいぐちういぬひゆらりぞめれき  
しよおーるも車もきどおーる  
てくれじこれこまはたつあけあ  
とやよせてゆくのはせこしびんえひせ  
てねるもどのは心のうらむと衣よそ  
おりともおれれどおれれとてひあ  
人きれど昔のことしそれわらわら  
ゆ衣なかり

えぬ志水と人きりるんえこりお  
しとらやよとひあは山わ出おれ

いんよあつれまけあかりいひまわ  
しころあおとPせわらんそび  
いれーららとて物よおれーらら  
アおどえうまもくしれうくよくれあ  
きぬ世のいしとてあわー比おのあよ  
わてひららよとてあーとぞそへん  
て卒比いそーとれど父よもつらぬぞ  
ーれやーとてのいどれとーの家  
びとのうらよとて人ぬらあはれと  
ーとてまはららのうらとてあよ  
あかそこの本道のあけては

負致ノミツキウラミク



いづれにぞとぞうわらふそなりしいで流るるは

別而神念比にて立身心し

それぞうれもあひてあはれそせう

一歩ノ御代ニツクニキモノヲト

金言

し心よとて心とれひんあど心出るる

本意

保ノ室

外心

まげりてせよとこりあひまはそ

忘ぬべきことと心かづくもあはれりか

逢玉フコト愛ニキリ

ふわふわ一日しりあひて

相成ミヲ在モ賢クシラ甲日心

しとるらんや

原

しとるらんやゆいあはれらよこのうし

ミルメナキヲ恨テ

文の伊予みらるしワモノにて行なラ

れひりやあはれらと愛ありはさし

うらやまのくめがぬしわしぬとらわ

原

命比のさごしらわくうくぬはれと心

塩ミメ又海トキヤヤト共  
ミルメナクシテ命ノ又ラ

よはいいとあくさまの心らせらあひよ

あんそとていよとらまねんやとそ流

好色

しとるらんやあはれらと愛ありはさし

河師・師及リシ玉ト云

あはれらと愛ありはさし

あはれらと愛ありはさし

あはれらと愛ありはさし

小君

あはれらと愛ありはさし

あはれらと愛ありはさし

あはれらと愛ありはさし

あはれらと愛ありはさし

あはれらと愛ありはさし

天 <sup>逢タルユニ</sup>  
わみ坂の雲やいゝあるせうなれどうげい

わげい松山イナフカケのあふふらん文句なれどよあん

あし原に衣しつうしうはなれぬやとあほ

しとれらんあれどあひくはれのな

うごううらうらなれよイヨリひがれイヨリい

の流ありやあやまうのうて物心

そらあれどよ原い原ふ原い原ぬ原れ原い原

こころとよめてよろげめことごとく原い原よ原

のこまうせてわがわらうつやうう原でれ

う原し原つれものめられつひら原女原ぞ原

老い原あ原く原せ原めて原び原人原よ原そ原と原くれ原て原い原あ原

原万本モ御流モ此君ラハ空野ニ  
原ノモ東ニ空ニ  
原ノモ

コノタメニ残入年ヲエモレナ  
先テ先立リトナレルナ

さぬいさあれよどあ原い原よ原あ原んと原

あげい原ぬと原あ原よ原の原られ原う原ざ原ち原り原や

あれどあ原こ原こ原さ原い原あ原い原ぞ原う原よ

く原の原れ原い原あ原よ原の原う原と原む原一原か原も原ぬ原わ原

み原ど原の原心原と原い原ぬ原と原う原う原あ原い原

うあ原う原い原と原よ原い原ふ原と原心原よ原え原ぞ原あ原ぬ原や

よ原そ原う原せ原ぬ原と原い原と原い原の原ぬ原い原ゆ原と原あ原ど

か原ま原け原れ原くれ原ど原う原と原あ原れ原は原い原と原い原

あ原い原ち原い原あ原う原し原う原と原せ原れ原と原も原ち原あ原わ原

あ原い原ち原られ原う原い原と原あ原げ原い原ち原

ん原し原た原い原し原う原ら原れ原い原の原ぞ原い原し原

能守  
能守

己にせうに心ありてせうにかさげつわらるる家  
 一の<sup>何事</sup>はなとてうごめあはせともぞうご  
 とまごそのぬいせよあごついにうちまわて  
 ひとあいのま<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>  
 せあつたかてうく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>  
 しめつ<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>  
 ちれぞとちりて人よこあんとちせてあ  
 ちよ<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>  
 げく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>  
 福よのうわれはな<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>  
 いそ<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>のふく<sup>母</sup>

ちよあひまごのふく

△繪合

十二

詞名トス

源世載ノ三月比也

前<sup>元二載</sup>秋<sup>入内</sup>交<sup>入内</sup>れ<sup>ハ</sup>此<sup>ハ</sup>と<sup>中宮</sup>此<sup>ハ</sup>心<sup>ハ</sup>よ<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>て

うわ<sup>ハ</sup>そ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>や

れ<sup>ハ</sup>ど<sup>ハ</sup>大<sup>ハ</sup>殿<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>院<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>んと<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>や

ら<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>二<sup>ハ</sup>条<sup>ハ</sup>院<sup>ハ</sup>よ<sup>ハ</sup>わ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>んと<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>よ

ら<sup>ハ</sup>び<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>さ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ぶ<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>よ<sup>ハ</sup>も

て<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>つ<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>ど<sup>ハ</sup>大<sup>ハ</sup>方<sup>ハ</sup>め<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら

て<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>め<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>た<sup>ハ</sup>院<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>覚

し<sup>ハ</sup>め<sup>ハ</sup>せ<sup>ハ</sup>ど<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>せ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>そ<sup>ハ</sup>こ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>さ

ら<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>そ<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>日<sup>ハ</sup>よ<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>え<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>せ<sup>ハ</sup>ひ

多量の注釈が、本文の傍に記されています。例として、  
 元二載: 源朝敵討伐の年。  
 入内: 内廷に召入られたこと。  
 中宮: 中宮御息所。  
 大殿: 大内侍。  
 院: 院政を執る。  
 二条院: 二条院御息所。  
 大方め: 大方の御座り。  
 覚: 覚悟。  
 ぬにせひ: ぬくにせひ (ぬくはなす、ぬくはぬす)。

兼和百歩方功云々卷中  
盛理經三七日辰出燒百  
歩外一聞香云々

浅カラ契リマス心葉ハ  
手向ノ神ゾミルアリケル

此箱上テ髪ヲケルニダ改ニ箱トスルニ  
都立宮ハ  
香ノルニ盛  
し

れんこごしよれつひあはれくさぐさ  
種  
こごしよれつひあはれくさぐさ  
種  
こごしよれつひあはれくさぐさ  
種

百姫のおとあはれくさぐさ  
種  
百姫のおとあはれくさぐさ  
種

まじりやうあはれくさぐさ  
種  
まじりやうあはれくさぐさ  
種

ふんと女別あはれくさぐさ  
種  
ふんと女別あはれくさぐさ  
種

のこつこつとみあはれくさぐさ  
種  
のこつこつとみあはれくさぐさ  
種

まあまあこつこつとみあはれくさぐさ  
種  
まあまあこつこつとみあはれくさぐさ  
種

んこの心むよ  
心トハ近代折敷ノ四方ニイトカ子ニテ松枝ヲツクリ糸ニテ葉ヲ  
ハスニテ鶴ノドククリテタツルヲアリ是心葉ノ自シ今ナシ  
グシノハヨモミツラシタルニヤ

朱  
此葉書ハ下リトキ朱ノ在位ニ沖鏡ニクシラサシテニス心葉ノ方ニ至テニギキヨシマ  
林巻ニテ別ノクシラサシテ玉叶京人ニシキヨシノ心葉ヲカコツテニテ  
こじり

あはれくさぐさ  
種  
あはれくさぐさ  
種

あはれくさぐさ  
種  
あはれくさぐさ  
種

あはれくさぐさ  
種  
あはれくさぐさ  
種

あはれくさぐさ  
種  
あはれくさぐさ  
種

あはれくさぐさ  
種  
あはれくさぐさ  
種

あはれくさぐさ  
種  
あはれくさぐさ  
種

あはれくさぐさ  
種  
あはれくさぐさ  
種

あはれくさぐさ  
種  
あはれくさぐさ  
種

あはれくさぐさ  
種  
あはれくさぐさ  
種

あはれくさぐさ  
種  
あはれくさぐさ  
種

あはれくさぐさ  
種  
あはれくさぐさ  
種

がらありとそらもどあそ心づうしく當りか  
 やまをらん丸通トキハ朱ヲしししとあしーしとま  
 ありしと氣づうれ心づんをあどるさされぬ  
 てごど心づらうらあがぬア原ひれうりえい  
 ようあしとせぬんま朱いせうそこもさざざど  
 あしぬど甘利いしししししししししししし  
 こいでぞ\*えんあわまうげよそうてい  
 せううくまぬ今あしぬんざんしとあ  
 けあうとどけあうとと人さざめ  
 わづひまゆけししと原ぬていしとあ  
 ーしとあり今あしぬと

おしぬも朱いしししししししししししし  
朱ノソノキト五ノ  
 いあまやういしししししししししししし  
 ーしはぬとそこいしとあく長しとこなりぬ  
 ーしあうか母トモ、伊勢いしししししししししししし  
 い息前のいしとあどしししししししししししし  
 されていしししししししししししし

ありしと氣づうれ心づんをあどるさされぬ  
 てごど心づらうらあがぬア原ひれうりえい  
 ようあしとせぬんま朱いせうそこもさざざど  
 あしぬど甘利いしししししししししししし  
 こいでぞ\*えんあわまうげよそうてい  
 せううくまぬ今あしぬんざんしとあ  
 けあうとどけあうとと人さざめ  
 わづひまゆけししと原ぬていしとあ  
 ーしとあり今あしぬと

朱院のいししししししししししししししししし  
朱院のいししししししししししししししししし  
朱院のいししししししししししししししししし  
朱院のいししししししししししししししししし

びんばいふしにけあしにてようせいはい  
 かにあり有らりいふいし十四とけあくあしは  
 しある十うく引さぐあゆるとふれぞあ兼宮六院  
 ーとや覚えらんふどに神くくし神とととく受  
 ちありてしひのれがれ流とどふよありて  
 ちうーさしういことりあひひひとととと  
 ぶいふゆよの流とふそひひあつうう受  
 せすりの寧ねとくうーいれうううづく  
 の流あそ内らり中ふね心うけぢわわらあや  
 ざんよふあーめれどと院とつとあし流て  
 れとあひむらちととを流うらふとと母房など

えむと息コリらありあほうう交うれどととづらあり  
 ーもあうれむひていとあくけしあし  
 まふさく心あし心あし心あし心あし心あし心  
 ありてあし心あし心あし心あし心あし心  
 ガーあし心あし心あし心あし心あし心  
 あし心あし心あし心あし心あし心  
 あし心あし心あし心あし心あし心  
 ぐれてぬめめりどとよふあし心あし心  
 ーあし心あし心あし心あし心あし心  
 人まじりあし心あし心あし心あし心あし心  
 うれ心づみーとあし心あし心あし心あし心あし心  
 ーあし心あし心あし心あし心あし心

ぞうぞれ却とあびぬり交しこくさくさ  
人多りぬとれ心づひーそみえさみせぬ  
と交しぬりちる<sup>ま</sup>れぞかつかくさくさ  
やわんとさくさくさくさくさくさ  
のがぢぬさくさくさくさくさくさ  
さくさくさくさくさくさくさくさ  
かーとさくさくさくさくさくさ  
ふれでひるさくさくさくさくさ  
うれさくさくさくさくさくさくさ  
ともぬさくさくさくさくさくさ  
れで何かづりくさくさくさくさくさ

いとくきぬどくさくさくさくさ  
びよひらふどわくさくさくさくさ  
かきさくさくさくさくさくさくさ  
くさくさくさくさくさくさくさ  
ぬさくさくさくさくさくさくさ  
かかぬさくさくさくさくさくさ  
らんせさくさくさくさくさくさ  
その比<sup>ら</sup>か<sup>ら</sup>ぬさくさくさくさくさ  
あか<sup>ら</sup>ぬさくさくさくさくさくさ  
れくさくさくさくさくさくさくさ  
あか<sup>ら</sup>ぬさくさくさくさくさくさ



しるいりうしきまぐんよいりぞいでいり

よきしるいとゆしよこころうたれいと

のれりよ長あつれりよこのありこころ

らぞこゆれどとくひく覚えあそ

いとあしりうしよころうらひやあり

あしきたうと床しうふかしゆれど

よえみありあえむと福あおしかせ

わりうらそあそしよふけりあつまいり

らむとあつづゝかのみしあついで

あそあしけりいけいひのこあついゆきれ

むしあつりあそしよとあつまいとあそ

原林三山  
カキノツチ  
二八玉ハス  
水鳥所ノ  
ナリノ見  
玉ツリ

あつりうしきまぐんよいりぞいでいり

よきしるいとゆしよこころうたれいと

のれりよ長あつれりよこのありこころ

らぞこゆれどとくひく覚えあそ

いとあしりうしよころうらひやあり

あしきたうと床しうふかしゆれど

よえみありあえむと福あおしかせ

わりうらそあそしよふけりあつまいり

らむとあつづゝかのみしあついで

あそあしけりいけいひのこあついゆきれ

むしあつりあそしよとあつまいとあそ

秋松

一げあつ人の心はくちつたぬまのほあはせ  
 つまひせさひかまあしうそひつてこく  
 せでうらやせしひぬくさぬらさげさよは  
 心とていさぢうわさせぬてあわしよ  
 了はよはあひさしつらと花中納言  
 ぬてあつたうでふでくうまあまぬて  
 心ゆめしけれくよあらあせとさうけ  
 みせせがれうよぶうしやうりて  
 ぢうまうめせまういあささぬあつた  
 にあういさうごしよらういらつあせぬ物  
 念を心くちてみあつたあはれを  
ハガタメスルニシ  
コトニ  
物語ニテ  
物語ニテ  
物語繪ト云

物語ニテ  
 物語繪ト云

くる心くちつたうとえりつてせぬ例の  
十二月 月々のこの心もみあはぬさぬよ  
 ぬけてくれんせせぬわがごとく  
 うれむさういこあさよせしこれとぬんぞ  
 ぬよ心やせくしうわいでぬんぞ  
 ひめそひぬあよりせわしとせぬとあ  
領 らぬてぬて花中納言の  
 心のわくくしうそあつたまらうい  
 かどわしひぬあがらうしうて心やせ  
 くしぬんせさせあやうあゆいと  
 やがさうやういぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
古 代  
天 子  
心 心  
領 領  
心 心  
心 心

花中納言  
 月二ノナニテ  
 月二ノナニテ

しとせうしー流て原のよあつていゆつし  
きとつりつらうらうらとせ流て世女  
君ともあつてよふまめしーとせ流て  
えりつこの人せ流長根奇王昭君長根ハ馬鹿死ス昭君長根  
ニ嫁ラウラムあつて  
ありあつてつりつらうらとせ流て  
しーとせいいせつとせりともめ流て  
のは日記の流とせうらつてせ流てつ  
でうぞ女君よしみせり流つて心あつて  
いよらんくよせうらつてひらん人の間  
しますく長あつてまよわ流てさくその  
よ此後とせりつせ流てあつていせつ紫原

長根ハ馬鹿死ス昭君長根ニ嫁ラウラム

うらへしーつあつてつらうらつて  
流てつらうらうらとせ流て  
ことつとせりつらうらつて  
くことつとせりつらうらつて  
しーとせいいせつとせりともめ流て  
えりつこの人せ流長根奇王昭君  
ありあつてつりつらうらとせ流て  
しーとせいいせつとせりともめ流て  
のは日記の流とせうらつてせ流てつ  
でうぞ女君よしみせり流つて心あつて  
いよらんくよせうらつてひらん人の間  
しますく長あつてまよわ流てさくその  
よ此後とせりつせ流てあつていせつ

紫原

急ぎし<sup>申方</sup>つめらると<sup>カ</sup>うぬて<sup>カ</sup>行中<sup>カ</sup>初<sup>カ</sup>えいよ  
 ひと<sup>カ</sup>れうて<sup>カ</sup>りく<sup>カ</sup>へ<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>ひもの<sup>カ</sup>ふ<sup>カ</sup>あいな  
 く<sup>カ</sup>うの<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>ひの<sup>カ</sup>十日<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>程<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>ん  
 も<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>そ<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>び<sup>カ</sup>物<sup>カ</sup>あり<sup>カ</sup>う  
 こ<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>あり<sup>カ</sup>よ<sup>カ</sup>内<sup>カ</sup>わ<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>せ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>急<sup>カ</sup>ぎ  
 の<sup>カ</sup>ひ<sup>カ</sup>よ<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>ふ<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>い  
正月節云四月節云  
 と<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>前<sup>カ</sup>  
 ぬ<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>つ<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>わ<sup>カ</sup>  
 と<sup>カ</sup>ち<sup>カ</sup>つ<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>せ<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>ぬ  
市ノヨリ繪ニルレ  
 と<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>よ<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>  
林ノマ  
 ま<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>梅<sup>カ</sup>つ<sup>カ</sup>が<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>へ<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>物<sup>カ</sup>ぬ

晋文子ノ初  
 多シ二月ハ  
 余三月ハ  
 内侍モアリ

名<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>ぎ<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>わ<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>そ<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>比<sup>カ</sup>せ<sup>カ</sup>  
実ノキキサニ  
 ぬ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>め<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>や  
 う<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>よ<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>女<sup>カ</sup>房  
 か<sup>カ</sup>ど<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ど  
 き<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>よ<sup>カ</sup>せ<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>申<sup>カ</sup>交<sup>カ</sup>も  
 新<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>そ<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>ど<sup>カ</sup>そ<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>  
 ぐ<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>そ<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ひ<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>を  
 こ<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>つ<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>ぞ<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>よ<sup>カ</sup>満<sup>カ</sup>せ  
梅重ニテ銚石ノ西度アリシコレハ初  
 ぬ<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>ひ<sup>カ</sup>ぎ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>み<sup>カ</sup>ぎ<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>わ<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>  
 ぬ<sup>カ</sup>梅<sup>カ</sup>つ<sup>カ</sup>が<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>け<sup>カ</sup>約<sup>カ</sup>後

内侍モ余初モ上ニ侍居ノ大式ノ下見コルル親丈ノ名

竹取ノ根本ハ竹ラックル箱  
 竹取ノ根本ハ竹ラックル箱  
 竹取ノ根本ハ竹ラックル箱  
 竹取ノ根本ハ竹ラックル箱

のふりーわねの命ね 木敷  
 中ねの命ね 木敷  
 いふくぐぐもて 心づく  
 ゴもあしと実 香モ夜ニ  
 うのあや 丸取  
 不のう げと  
 の あ  
 れど く  
 ぬ あ  
 れ ど  
 ん あ

竹取ノ根本ハ竹ラックル箱  
 竹取ノ根本ハ竹ラックル箱

氷屋不知火 火鼠不知火

むねとあれ 生レ免  
 り 生レ免  
 こ 生レ免  
 百 禁中ニ  
 ま 生レ免  
 い 生レ免  
 一 生レ免  
 い 生レ免  
 校 生レ免  
 竹 生レ免  
 り 生レ免  
 の 生レ免  
 ま 生レ免

竹取ノ根本ハ竹ラックル箱  
 竹取ノ根本ハ竹ラックル箱

昌永三二月 藤目執  
 某南平公 藤目女目従  
 八三下 巨勢朝臣相見  
 諸師云 母之同時父  
 全見ハ寛平ノ時ク

唐 繪  
 糸  
 子  
 金  
 針  
 金  
 針  
 金  
 針

竹取ノ根本ハ竹ラックル箱  
 竹取ノ根本ハ竹ラックル箱

右の赤い糸は、トコグサハ  
 十二三歳に遊歴使ニ  
 行遊尻ニシテハシヨクニ至テ  
 梅檀本ノ本ニシテ、羅漢仲  
 人ニ琴ヲ秘曲ヲナラシメテ  
 飯四メ秘曲ノ後、不時  
 雪霜ヲモフラセシトシ

紙巻煙丸軸よりのひれよそひあり  
 げんはげうさば凡よめばねうぬまよ  
 しかなれうどれうてはゆりおれ心  
 づしもうなひてつわよひよのこうどかし  
 祇ぬもも阿わびこくさうえの祇といわめ  
 名よゆううあさこ心よつよよ急な海  
 しもろうこと日のむさうとこうあきて  
 ありうきことだれあびなりとてうさるに  
 うさううのうとて表紙裏あり玉れ軸なり  
 へんはげうさば凡よめばねうぬまよ  
 とうめうげよあもかやくまでこめたよ  
 右の赤い糸は、トコグサハ  
 十二三歳に遊歴使ニ  
 行遊尻ニシテハシヨクニ至テ  
 梅檀本ノ本ニシテ、羅漢仲  
 人ニ琴ヲ秘曲ヲナラシメテ  
 飯四メ秘曲ノ後、不時  
 雪霜ヲモフラセシトシ

正五位物語ハ三位ノ息女年衛  
 大君ト云アリ、或人コレニ平  
 比古ハ平衛ノメシニイリタル  
 由ヲ繪ニカケリ

そのこととわなうづぎよ  
 三位とあはせてまぶさあやうせうれも  
 ちしあううくにはいへくうらわたり  
 うらうらあらうせいせはわらわらうきさ  
 ぬいあううえあまうう  
 いせの海のうさこ心よ  
 正五位物語ハ三位ノ息女年衛  
 大君ト云アリ、或人コレニ平  
 比古ハ平衛ノメシニイリタル  
 由ヲ繪ニカケリ

左の赤い糸は、トコグサハ  
 十二三歳に遊歴使ニ  
 行遊尻ニシテハシヨクニ至テ  
 梅檀本ノ本ニシテ、羅漢仲  
 人ニ琴ヲ秘曲ヲナラシメテ  
 飯四メ秘曲ノ後、不時  
 雪霜ヲモフラセシトシ

葉年ハ阿保親王ノ弟五  
 番目ニ在座ノ在ノ字五番  
 五ノ字ニ在座ト云別  
 取也母ハ伊豆内親王

いんろろろろろろ 葉年判 三十三位ノ物成ニ人ノ名 若侍れたる君の心くろろ

げよ此てぐろろれど 在座中ねの名とハエ

くろろどとの流しせて た勝し 文

友 伊勢物語ハルメコノフリタシ ちちめをうろろめめろろろろ 葉年ノ名ヲバ

れわまの名とマキろろろろれれれ 母判ニテミドリガハシキト

みろろろろろろろろろろろろろ サタメカスル

の葉と出くろろろろろろろろ サタメカスル

しりあるわろろろろろろろろ サカ子スル

入のし文れろろろろろろろろ サカ子スル

とろろろろろろろろろろろろ 原

ろろろろろろろろろろろろろ

くろろろろろろ 雨 ニ番目トシ 前よそびろろろ

ろろろろろろ 重テリ絵合モヤト の流ひろろろ

ろろろろろろ 出シマフ 中よろろろ

ろろろろろろ 天玉モモ院モタテ ねのろろろ

ろろろろろろ ト心ニヤ せのろろろ

ろろろろろろ 昔ハ多ク箱ニクダク せのろろろ

ろろろろろろ アラキリフルキラアセニト とのろろろ

ろろろろろろ アハキリフルキラアセニト ちのろろろ

ろろろろろろ アハキリフルキラアセニト ちのろろろ

ろろろろろろ アハキリフルキラアセニト ちのろろろ

ろろろろろろ アハキリフルキラアセニト ちのろろろ

しつこくもせぬて、<sup>神</sup>神がよれ念もも  
昔八年中ノ節会ヲ日記セテ繪ニカキテラクトミタリ

せぬて、<sup>神</sup>神がよれ念もも  
相違ノ不閉シコノ詞ニテ延喜ニ比シタル類也

ろくけりあつと昔の上もごものごりぐ  
相違ノ不閉シコノ詞ニテ延喜ニ比シタル類也

儀式に心よちて、<sup>神</sup>神がよれ念もも  
儀式に心よちて、<sup>神</sup>神がよれ念もも

えんよせ、<sup>神</sup>神がよれ念もも  
えんよせ、<sup>神</sup>神がよれ念もも

れ、<sup>神</sup>神がよれ念もも  
れ、<sup>神</sup>神がよれ念もも

ことごとく、<sup>神</sup>神がよれ念もも  
ことごとく、<sup>神</sup>神がよれ念もも

中ねと、<sup>神</sup>神がよれ念もも  
中ねと、<sup>神</sup>神がよれ念もも

のれ、<sup>神</sup>神がよれ念もも  
のれ、<sup>神</sup>神がよれ念もも

ららと、<sup>神</sup>神がよれ念もも  
ららと、<sup>神</sup>神がよれ念もも

そ、<sup>神</sup>神がよれ念もも  
そ、<sup>神</sup>神がよれ念もも

こよれ、<sup>神</sup>神がよれ念もも  
こよれ、<sup>神</sup>神がよれ念もも

昔代ラズ  
シメトアルヨリ  
氷サトミヨリ

カサリ  
心葉ハ金  
花板ラク  
リ管トリン  
タカ

神宮ノ大極殿  
佛興ヲヨセタルラカキタル

神宮ノ大極殿  
佛興ヲヨセタルラカキタル

神宮ノ大極殿  
佛興ヲヨセタルラカキタル

神宮ノ大極殿  
佛興ヲヨセタルラカキタル

神宮ノ大極殿  
佛興ヲヨセタルラカキタル

神宮ノ大極殿  
佛興ヲヨセタルラカキタル

神宮ノ大極殿  
佛興ヲヨセタルラカキタル

神宮ノ大極殿  
佛興ヲヨセタルラカキタル

神宮ノ大極殿  
佛興ヲヨセタルラカキタル

神宮ノ大極殿  
佛興ヲヨセタルラカキタル



コハ西宮託天徳四年  
三月朔日内裏哥合様  
シテ書ナセル

かどいとお海やし院のみりどいんらん  
うざわりなりく長とおぼせよぞあわし世と  
うわらん海やししきさうらん院のいぶく  
りしとおあしをけりらん内裏の  
いびくひもやそろん院のいぶく  
交らちれしきわて海のせこれりや  
あまのまらさけし内裏のいぶく  
これこのまのいんよまぐれてあし  
俊ようあわしつてあつめねそのまぐ  
儀なりやうられどあし  
之のてたおのれおも  
（右ハ） 西のキヨコ  
（下） 西のキヨコ  
（下） 西のキヨコ  
（下） 西のキヨコ  
（下） 西のキヨコ

同日 陰暦三月十日  
北度三月七日  
日代

うそぐまわられてさあぬ殿とく  
うそぐまわられてさあぬ殿とく  
うそぐまわられてさあぬ殿とく  
うそぐまわられてさあぬ殿とく  
うそぐまわられてさあぬ殿とく  
（左） 西のキヨコ  
（下） 西のキヨコ  
（下） 西のキヨコ  
（下） 西のキヨコ  
（下） 西のキヨコ  
（下） 西のキヨコ

水入は  
水入は  
水入は  
水入は  
水入は  
（下） 西のキヨコ

おどろといはれりしわし何とやらよやがご

のふら山吹がまののあこあこわはるあま

よりいしうらへの女房まへてありとささる

わけしちやありてうらめおとど中納言

ありぬその日それら此文も新り新りいしよ

しありておしるるかよは松とあんとそこ

のもぬくおとものさしよは女おんかやわ

いんといしやいよいおとぞ殿よ

さあひぬきおゆきとありておまへよま

いぬばしん流しよつらぬいしうげ

いしつらしん急いしありしよえとごいぬ

ありぬきど何のほこは松もいしよの上も

ごしめありしうごいしととえしひつて衆

いしこゆきぞうごいしがしりさぬぬいん

いしあしとらうしうごいし松いりしやわありて山

水のゆいあつととえしをばしぬぬぬ

なれぬいし筆のまあり人の心よはしりか

られてよまぬあしとらうしうごいし松よ

えらなりくにぞいしとてあかありしとみ

ゆりせらいぬまわてあつぬあしひごしけ

ぬこしとごいしよげしとあつととあはり

何いしぐれいぬいしとあけて申文もか

朝餉、西ノ障子、清浄紋、障子

花山吹の出でしあり

松宮マ札

中納言

内証

松

内証

松

判

松

月次、絵又、八層凡ノ

松いりしやわありて山

松

松

松

松



白氏文集  
文人教奇詩入萬年  
「ハ思フヤウナキナク

此てれうしうけあまきつらけいぞよひ  
これれれいしんぞまそ源刊けあき程うり  
くもんよふいれて後しもせうしもさえか  
どつさぬぐやれんドラン院のれれれを  
しう学いし学とふあせよととりて  
ゆりれをわあんとすれれれ人の  
命し不詳と第一歌なりびわうハと事こ  
ゆよあんをれこくじまれさでし人よあ  
しりまのしんれれわかづらよ学らな  
さくあひととふあをれいして政道ノ文集トモノコトニ  
のしぐれれをれれれれは天下ヲ改メテか  
天下一ノ

ことしあ甲下ノ句く甲下ノ句いし甲下ノ句わいし甲下ノ句く甲下ノ句ことしあ  
ことしゆし甲下ノ句ざりし甲下ノ句く甲下ノ句ことしあ甲下ノ句ん甲下ノ句ち甲下ノ句や  
まく甲下ノ句あ甲下ノ句い甲下ノ句れ甲下ノ句ま甲下ノ句く甲下ノ句し甲下ノ句く甲下ノ句は甲下ノ句く甲下ノ句  
むく甲下ノ句り甲下ノ句つ甲下ノ句こ甲下ノ句さ甲下ノ句て甲下ノ句ん甲下ノ句ぐ甲下ノ句こ甲下ノ句と甲下ノ句あ甲下ノ句り甲下ノ句く甲下ノ句  
と甲下ノ句あ甲下ノ句ぬ甲下ノ句山甲下ノ句が甲下ノ句け甲下ノ句い甲下ノ句よ甲下ノ句あ甲下ノ句り甲下ノ句て甲下ノ句よ甲下ノ句し甲下ノ句れ甲下ノ句海甲下ノ句の甲下ノ句す甲下ノ句  
ま甲下ノ句り甲下ノ句か甲下ノ句よ甲下ノ句ら甲下ノ句い甲下ノ句し甲下ノ句よ甲下ノ句ら甲下ノ句い甲下ノ句し甲下ノ句よ甲下ノ句ら甲下ノ句い甲下ノ句し甲下ノ句  
し甲下ノ句れ甲下ノ句れ甲下ノ句れ甲下ノ句れ甲下ノ句れ甲下ノ句れ甲下ノ句れ甲下ノ句れ甲下ノ句れ甲下ノ句れ甲下ノ句れ甲下ノ句  
い甲下ノ句ら甲下ノ句い甲下ノ句し甲下ノ句も甲下ノ句れ甲下ノ句せ甲下ノ句あ甲下ノ句ん甲下ノ句あ甲下ノ句ま甲下ノ句あ甲下ノ句ら甲下ノ句ら甲下ノ句し甲下ノ句よ  
ついであきてあんぜんぜんあモリスキナヤウキリト最末人ノイハシトいモリスキナヤウキリト最末人ノイハシトあモリスキナヤウキリト最末人ノイハシトはモリスキナヤウキリト最末人ノイハシト  
うモリスキナヤウキリト最末人ノイハシトらモリスキナヤウキリト最末人ノイハシトいモリスキナヤウキリト最末人ノイハシトくモリスキナヤウキリト最末人ノイハシトあモリスキナヤウキリト最末人ノイハシトらモリスキナヤウキリト最末人ノイハシトのモリスキナヤウキリト最末人ノイハシトあモリスキナヤウキリト最末人ノイハシトしモリスキナヤウキリト最末人ノイハシトや  
何んと甲下ノ句ま甲下ノ句り甲下ノ句い甲下ノ句し甲下ノ句よ甲下ノ句ら甲下ノ句い甲下ノ句し甲下ノ句よ甲下ノ句ら甲下ノ句い甲下ノ句し甲下ノ句

ヨリエ支シカト



ひあさこよや院の池とあし出て打志かされ  
流ぬ地ハツラフミ赤余日の月さし出てこあさこよ

やうあさこよど大さこの元あしこい程あるよ

せん女官和琴アノドアツル人のつりここれれとあし出て楳中初玄わご

い流るり流さしんど人よいまさうわてつりこ

流りみ螢こささのれいとあしとえんびくいおの

命ぬコニニイリ玉フクノ中流るり流さしんど人よいまさうわてつりこ

りして栞子こささのれいとあしとえんびくいおの

こつりよは花の多し人れいこらもかあよ

みてちれささづつ程心面白ちゆさあぞよさ

あさこよけありろくたハ中女まればこら

流し重せみこいれぞ判者さしバ

比のことよいひ念世中ノトリスナのまじあよ

のそし中女あよさうやしとせ流とあしとせ流

はれど女ながらあ又のうわれまきさくゆ

し源ぐせ流ど源まづぐくよとあしとせ流

う源すま心絵りせ流てさしやしとせ流

く源こをり流源さうあさこよとよつけてし源ら

も馳走や源なり源あし流て楳中初玄源れ源流

さ源ら源ん源こ源よ源や源と源心源や源ま源し源る源覚源さ源り源べ源う源あ源わ源り源

つ源の源は源い源づ源こ源い源わ源と源う源わ源覚源さ源し源よ源ら源れ源ど源れ源こ源

ま源や源こ源よ源覚源さ源し源ら源れ源ど源人源あ源れ源ど源み源なり源流

てぞいぬめしきわもしこいぬはれりる<sup>後心</sup>まら  
いせらるるしよし<sup>若</sup>時うわしとせ念れ人の  
ふつこつこ例とそんとそつわいづ  
ぬめつらこつらこいぬぬびしめづし  
せらよせせぬていづいづわのほせわ  
<sup>原</sup>あしぞれつひなりいぬよせとそつて今せ  
う<sup>若</sup>あびがしとみまうてれせと  
そひいあんといづあしがせづらるる昔れ  
うとみまうしよし<sup>原</sup>いづてつこい  
わここのがわせよぬはわら人のあづこえ  
むいぬわごらるる<sup>若</sup>いぬはれ<sup>原</sup>れ程そ  
今、天正、世三

そごいよら中比なりこよなうあそまづこさ  
しら<sup>た</sup>いよらうて今まぞしなよら  
ならわい<sup>若</sup>らわ後れさうえいれいのらうら  
うし<sup>若</sup>まづこよこまりわて後れせのことといと  
あふしよひよものべんとあはして山室の<sup>嵯峨、東堂、ツクシ、コシ</sup>  
のどあつとあてこ<sup>サガニ</sup>つらせぬ佛師  
のいとなこてせせぬつらよせ念れ志い<sup>シヤ、ゆえ、作、君、シ</sup>  
ららるるぬしづしづしてえんとそめ  
そよせう<sup>サツ</sup>それんといづげある<sup>地</sup>い  
そつとつらよつとあわごい





